

Volume Purchase Program(VPP)

機能ガイド for iOS



改版履歴

改版No.	ページNo	変更内容	日時
1		制定	2015/9/30
2	14,29,32,35, 36,37,51	機能改良に伴う修正	2016/7/27
3	全般	デバイスベース方式対応他、バージョンアップ に伴う画像や文言の変更	2016/9/27
3	全般	マニュアル改良に伴う構成変更	2016/9/27
4	全般	機能追加に伴う画像の変更	2016/12/21
5	33	注意事項を修正	2017/4/27
6	6,13,14	VPPトークンのダウンロードをApple Business Manager (ABM) に変更	2018/10/3
6	54,55	VPPトークンの更新手順を変更	2018/10/3
7	6	VPPの契約方法に関するApple社の確認先を変更	2018/11/26
7	6	Apple Deployment Program から Apple Business Manager へのアップグレードの注意 事項を追加	2018/11/26

目次

1. VPP機能を利用する前に確認する (p.5)
 - 1-1 VPP機能を利用する前に確認する (p.6)
 - 1-2 VPP機能を利用できる人を社内で決める (p.10)
 - 1-3 VPP機能の設定から運用までの流れ (p.12)
2. LanScope AnとVPPを連携する (p.13)
 - 2-1 VPPトークンをダウンロードする (p.14)
 - 2-2 VPPトークンを管理コンソールにアップロードする (p.15)
3. ユーザーベース方式でアプリを端末に配信する (p.19)
 - 3-1 アプリ・ブックを配信したい端末を招待する (p.20)
 - 3-2 端末利用者が招待を承諾したかを確認する (p.24)
 - 3-3 Apple IDを変更した端末がないか確認する (p.26)
 - 3-4 購入したアプリ・ブックの方法を反映する (p.28)
 - 3-5 アプリ・ブックを端末に配信する (p.29)
4. デバイスベース方式でアプリを端末に配信する (p.32)
 - 4-1 アプリを端末に配信する (p.33)
5. 配信結果を確認して対処する (p.36)
 - 5-1 アプリ・ブックの配信結果を確認する (p.37)
 - 5-2 アプリ・ブックの配信が完了しない時に対処する (p.39)
6. アプリをアップデートする (p.44)
 - 6-1 アプリのバージョンを確認する (p.45)
 - 6-2 配信したアプリをアップデートする (p.46)
7. アプリをアンインストールする (p.47)
 - 7-1 アプリをアンインストールしてライセンスを回収する (p.48)
8. アプリのライセンス割当て方式を変更する (p.51)
 - 8-1 アプリのライセンス割当て方式を変更する (p.52)
9. VPPトークンを更新する (p.54)
 - 9-1 VPPトークンを更新する (p.55)

-
- 10. VPP機能の利用をやめる (p.57)
 - 10-1 VPP利用端末からLanScope Anをアンインストールする場合の留意点 (p.58)
 - 10-2 VPP利用ユーザーを削除する (p.59)
 - 10-3 LanScope AnからVPPトークンを削除する (p.60)
 - 11. その他VPP機能の運用方法について (p.62)
 - 11-1 Apple IDを資産情報一覧に反映させる (p.63)
- お問い合わせ先 (p.70)

VPP機能を利用する前に確認する

VPP機能を利用する前に、設定から運用までの流れや、必要な環境を確認します。

- 1-1 VPP機能を利用する前に確認する
- 1-2 VPP機能を利用できる人を社内で決める
- 1-3 VPP機能の設定から運用までの流れ

guide

1

Volume Purchase Program(VPP)機能とは？

Appleから提供されている「**Volume Purchase Program（以下VPP）**」は、企業および教育機関でアプリやブックを一括購入・管理できるプログラムです。

このVPPをLanScope Anに連携して利用すると次のことが実現可能です。

1. 管理者がVPPストアで一括購入したアプリやブックを、端末に遠隔で配信できます。
端末利用者・管理者のインストール工数が省けるだけでなく、確実な展開が可能です。
2. 端末利用者が異動・退職したなどの理由で不要になったアプリを回収し、別の端末利用者(端末)に配信しなおすことができます。適切な場所へアプリを再配置することにより、コスト削減・資産の有効活用を実現できます。

Volume Purchase Program(VPP)機能に関する注意事項

- ・本機能をご利用頂くには、オプション「LanScope An VPP ライセンス」の購入が必要です。
また、別途AppleとVPPの利用契約を結ぶ必要があります。あらかじめVPP利用のご契約をお願いします。
(iOSのみ対象)
 - ・この手順書では、VPPとLanScope Anの連携方法・配信方法についてご案内します。
VPPの契約方法については、Appleへのご確認をお願いします。
- ▼Apple Business Manager ヘルプページ
<https://help.apple.com/businessmanager/?lang=ja-jp#/>
- ・App Storeの無償アプリや、In-House(自社開発)アプリを配信したい場合は、別紙「アプリ配信ガイド for iOS」を参照してください。
 - ・本機能はiOSを管理する場合のみご利用いただけます。

＜すでにApple Deployment Programs から DEP・VPP登録を行っている場合＞

Apple Business Manager へのアップグレードが可能です。マニュアル『Apple Business Managerアップグレードガイド』を参照して、アップグレードを行ってください。

必要な環境・プログラム

■必要な環境(管理対象端末の通信環境)

- ・インターネットに接続できる環境
- ・次のポートと通信を行います：APNs (Apple Push Notification Service) による通信 (port : 5223)

■必要なプログラム

・An構成プロファイル

※iOS端末にインストールされている必要があります。

インストール方法は別紙「スタートアップガイド for iOS」を参照してください。

LanScope Anと連携できるアプリ・ブックの配信方法

	ユーザーベース方式		デバイスベース方式
対応OS Ver.	iOS 7.0 以降		iOS 9.0 以降
Apple ID	必要		不要
App Storeが禁止されている場合のアプリ配信 ※2	不可		可
ライセンス消費形態	Apple ID単位		デバイス単位
配信対象	アプリ	ブック ※1	アプリ
サイレントインストール	不可 Apple IDの入力ダイアログが表示される	可	可 「監視モード」の設定が必要 ※3
資産情報の取得 (ItunesStoreIdHash)	可 ※4		不可

※1 ブックの配信は、iOS 8.0以降の端末のみ利用できます。
VPP自体の仕様により回収・再配信はできません。

※2 構成プロファイルなどで「App Store」の使用を許可していない(アプリのインストールを禁止している)端末に対して、アプリ・ブックを配信すること、VPPに招待することはできません。
ただし、デバイスベース方式では配信可能です。

※3 「監視モード」の設定はiOS自体の機能です。AppleのApple Configuratorを利用して設定するか、Device Enrollment Program(DEP)機能を利用して設定してください(「監視モードに設定する」の項目を有効にしたDEPプロファイルを端末に割り当て、端末をアクティベーションする必要があります)。
DEP機能を利用するには、別途AppleとのDEP利用契約と、DEP専用端末が必要です。DEP機能の詳細は、別紙「Device Enrollment Program(DEP)機能ガイド」を参照してください。

※4 資産情報「ItunesStoreIdHash(Apple IDを暗号化した情報)」取得は、iOS 8.0以降の端末のみ利用できます。iOS 7.xの端末では、特にItunesStoreIdHashが取得できないことにより一部機能が制限されます。詳細は次のページ「■ItunesStoreIdHashについて」を参照してください。

ユーザーベース方式の注意事項

■ Apple IDについて

- ユーザーベース方式ではApple ID単位でアプリやブックを配信します。**そのため、ユーザーベース方式を利用する場合は、端末利用者ごとにApple IDを用意してください。**
- 1人が複数台の端末を利用して、すべて同じApple IDを利用している場合、1つのアプリ・ブックにつき1ライセンスの消費で最大5台までインストールすることができます。6台目以降の端末に同じアプリをインストールしたい場合は、その端末利用者用に別のApple IDを用意してください。別のApple IDで招待を承諾すると、さらに1ライセンスを消費してアプリ・ブックをインストールすることができます。**なお、1つのApple IDを複数人で使いまわすことは、Appleの規約上認められていませんのでご注意ください。**

例：

- 内田さんが自分の端末5台で「A」というApple IDを利用している場合：
⇒VPPストアで購入した【アプリX】を、1ライセンスで5台すべてにインストールできます。
- 内田さんが自分の端末6台で「A」というApple IDを利用している場合：
⇒VPPストアで購入した【アプリX】を、1ライセンスで5台にインストールできます。
残り1台にはアプリをインストールできませんので次の方法で対処します。

 - 1.内田さん用に新しくApple ID「B」を用意して、残り1台の端末に設定します。
 - 2.管理コンソールから内田さんの残り1台の端末を再度招待します。
 - 3.内田さんはApple ID「B」でVPPの招待を承諾します。

これで、さらに1ライセンスを消費して【アプリX】をインストールできます。

- 資産情報一覧にApple IDを反映したい場合は、「11-1 Apple IDを資産情報一覧に反映させる」(p.62)を参照してください。

■ iTunesStoreIdHashについて

iTunesStoreIdHashは、端末に現在設定されている**Apple IDを「暗号化」した文字列**です。LanScope Anでは、端末が**iOS 8.0以降の場合のみ**、この情報を資産情報として収集できます。

ユーザーベース方式のアプリ配信では「端末側でVPPへの招待を承諾した時点のApple IDと端末の組み合わせ」に対してアプリ・ブックを配信する仕様のため、Apple IDが変更されると配信に失敗します。

iTunesStoreIdHashが収集できることで、Apple IDが「端末側でVPPへの招待を承諾した時点のもの」から変更されているかを管理コンソール上で確認できることになるため、変更されている端末がないかを**配信前に確認・対処してから**、アプリ・ブックを配信することが可能になります。

※iOS 7.xの端末では、最新のiTunesStoreIdHashが取得できないため、Apple IDの変更を配信前に確認できません。配信に失敗してはじめて、Apple IDが変更されていることを検知できるようになります。

※iTunesStoreIdHash = Apple IDが招待承諾時点から変更されていないかを確認する方法は「3-3 Apple IDを変更した端末がないか確認する」(p.26)を参照してください。

VPP機能を利用できる人を社内で決める

1-2

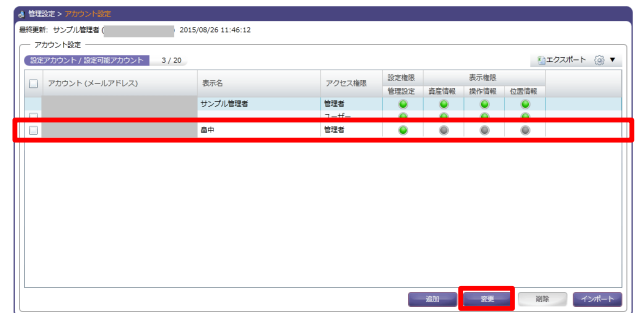


VPP機能を利用するための権限を、管理コンソールへのログインアカウントに付与します。

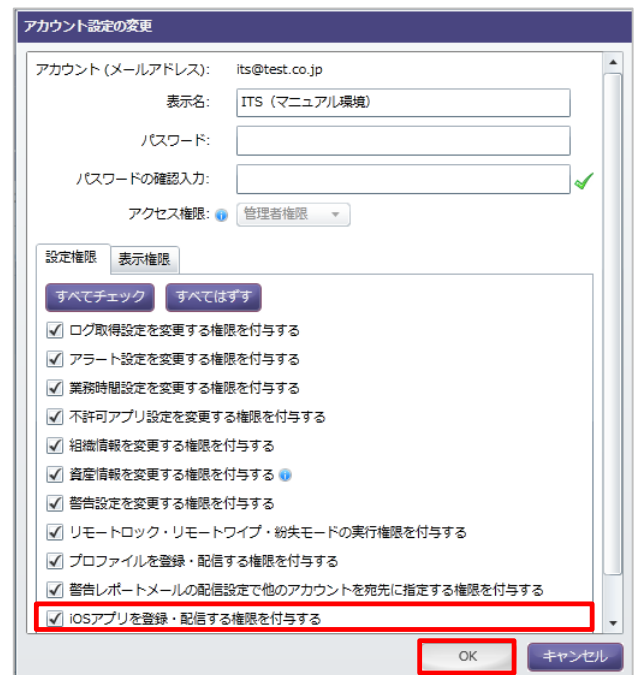
1. 管理者権限のアカウントで管理コンソールにログインし、「管理設定」メニューを選択して「アカウント設定」をクリックします。

※ユーザー権限のアカウントでログインしている場合「アカウント設定」メニューが表示されません。

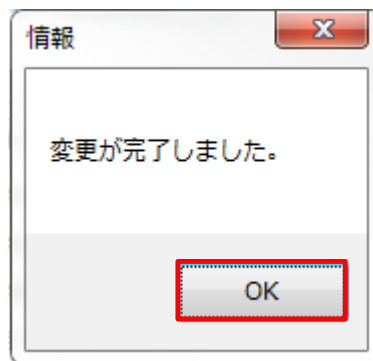
2. アプリの配信権限を付与したいアカウントの行を選択した状態で「変更」をクリックします。



3. 「アカウント設定の変更」が開きますので、「設定権限」タブにある「iOSアプリを登録・配信する権限を付与する」にチェックを入れ「OK」をクリックします。



4. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



◆ポイント

新しくアカウントを作成したい場合

次の方法で作成します。なお、作成可能なアカウント数は、保有ライセンス数によって異なります。アカウント一覧の左上にある「設定アカウント／設定可能アカウント」から確認してください。

1. 管理者権限のアカウントで管理コンソールにログインし、「管理設定」メニューを選択して「アカウント設定」をクリックします。
※ユーザー権限のアカウントでログインしている場合「アカウント設定」メニューが表示されません。
2. アカウント(メールアドレス)・表示名・パスワード・アクセス権限を設定します。
※アクセス権限について、VPP機能を利用する場合は「管理者権限・ユーザー権限」どちらでも構いません。管理者権限の場合【アカウント設定/端末登録設定/アンインストール防止設定/パスワードポリシー設定(iOS・Androidのみ)/ロガー括出力設定確認/メール配信設定確認】の閲覧・設定が可能です。
3. 「設定権限」タブにある「iOSアプリを登録・配信する権限を付与する」にチェックを入れて、「表示権限」タブで表示する部署の範囲を設定し「次へ」をクリックします。
4. 「通知内容の設定」が開きます。必要に応じて「追加するアカウント宛にメールを送信する」にチェックを入れて「件名」と「本文」を編集し、「次へ」をクリックします。
※メールを送信しない場合は「OK」をクリックして完了です。
5. 「件名」「本文」を編集し「次へ」をクリックします。
6. 「通知内容のプレビュー」を確認し、問題がなければ「OK」をクリックします。
追加したアカウントのメールアドレス宛に、アカウント追加のお知らせメールが送信されます。

VPP機能の設定から、運用までの流れは次のとおりです。

● LanScope AnとVPPを連携する

1. VPPトークンをダウンロードする
2. VPPトークンを管理コンソールにアップロードする

● ユーザーベース方式でアプリを端末に配信する

3. アプリ・ブックを配信したい端末を招待する
4. VPPストアでアプリ・ブックを購入して管理コンソールに反映する(※1)
5. 端末にアプリ・ブックを配信する
6. アプリ・ブックの配信が完了したかを確認する

● デバイスベース方式でアプリを端末に配信する

3. VPPストアでアプリを購入して管理コンソールに反映する(※1)
4. 端末にアプリを配信する(※2)
5. アプリの配信が完了したかを確認する

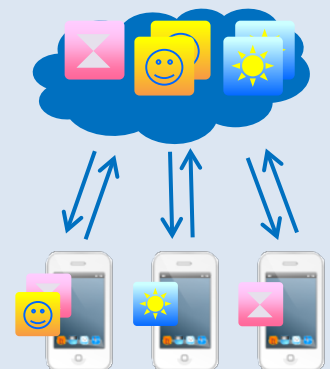
※1 VPPストアでのアプリ・ブックの購入は、どのタイミングでも構いません。

※2 ブックはデバイスベース方式で配信できません。

管理コンソールから、アプリ・ブックの配信が完了したことが確認できれば完了です。

端末利用者が異動・退職したなどの理由でアプリが不要になった場合は、管理コンソール上で該当アプリのアンインストール設定をすることで、該当端末からアプリを回収できます。回収したアプリは、アプリを必要とする別の端末に配信できますので、アプリの購入コストを削減し、資産を有効活用することができます。

※ブックは、VPP自体の仕様により回収・再配信できません。



LanScope AnとVPPを連携する

LanScope AnとVPPの連携設定を行い、VPP機能が利用できるようにします。

- 2-1 VPPトークンをダウンロードする
- 2-2 VPPトークンを管理コンソールにアップロードする

guide

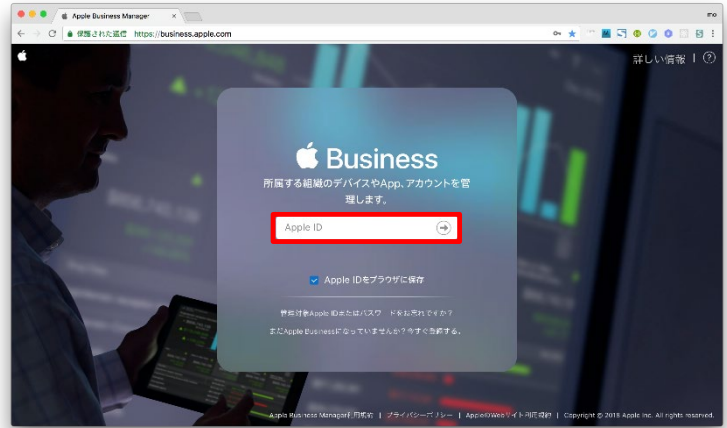
2

VPPトークンをダウンロードする

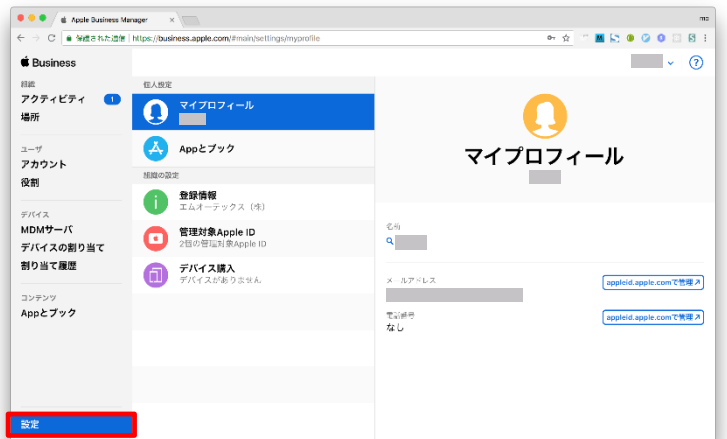
2-1

VPP と LanScope An を連携するために必要な「VPPトークン」をダウンロードします。

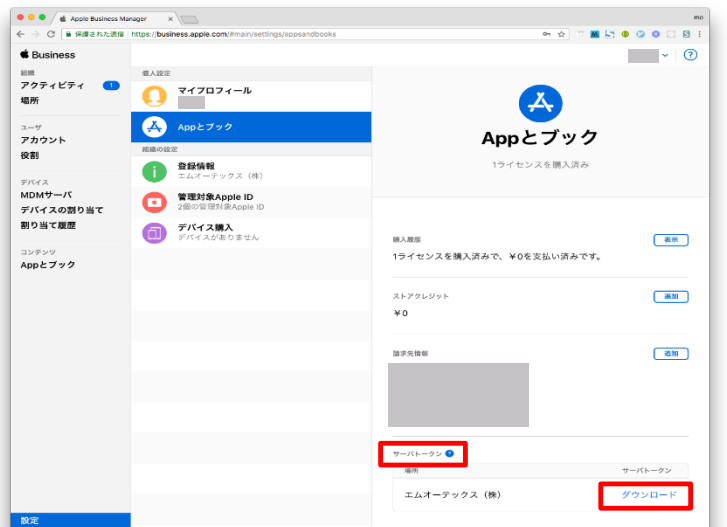
1. Apple Business Managerのサイト
(<https://business.apple.com>)にアクセスし、サインインします。



2. サインイン後、左下の[設定]をクリックします。



3. 画面右「サーバートークン」より[ダウンロード]をクリックして、任意の場所にトークンを保存します。



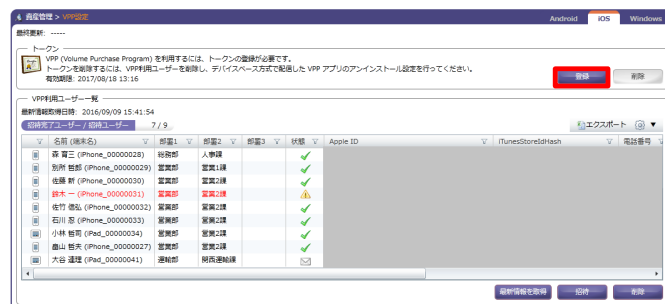
VPPトークンを管理コンソールにアップロードする



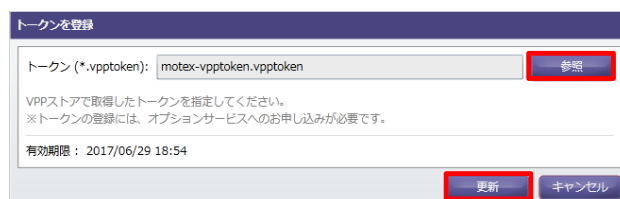
「2-1 VPPトークンをダウンロードする」で、ダウンロードした「VPPトークン」を、管理コンソールにアップロードします。

1. 管理コンソールにログインし、「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。

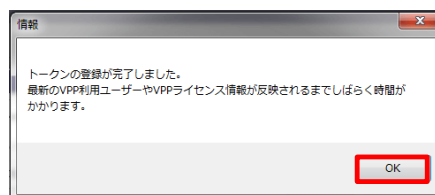
2. 「登録」をクリックします。



3. 「参照」をクリックして、ダウンロードしたトークンを選択して「更新」をクリックします。

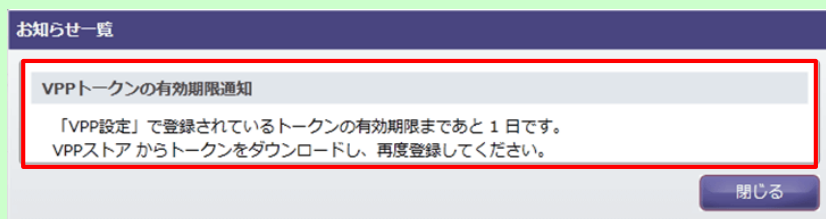


4. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



◆ポイント

VPPトークンの有効期限は、VPPトークンを作成してから1年間です。有効期限が近づくか、有効期限が切れると、管理コンソールへのログイン直後に次の画面が表示されますので、期限が切れる前に更新する必要があります。



有効期限が切れた場合、端末に配信済みのアプリが利用できなくなる等の影響はありませんが、管理コンソールでVPP機能に関する新しい操作(新規購入したアプリを配信するなど)を行うことができなくなります。

詳細な更新手順については「9. VPPトークンを更新する」(p.54)を確認してください。

◆以前別のMDMツールでVPPを利用したことがある場合

別のMDMツールでVPPを利用したことがある場合で、VPP自体からVPP利用ユーザーの情報が削除されていない場合、VPPトークン登録時や登録後に次の操作が必要です。

- **VPPトークン登録時に次のメッセージが表示されますので「OK」をクリックします。**

VPPを利用したことのあるトークンを登録しようとしています。過去に割り当てたVPPアプリのライセンスはすべて回収されます。よろしいですか？ (OK・キャンセル)

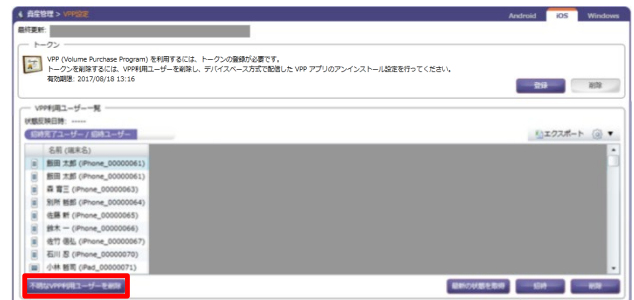
「OK」をクリックすると、以前のMDMツールで配信していた分のアプリのライセンスがすべて回収され、改めて、購入したライセンス数分のアプリをLanScope Anから配信できるようになります。

以前のMDMツールで配信していたアプリが端末に残っている場合、残りライセンス数を正しく管理するために、必ず手動でアンインストールしてからLanScope Anで配信しなおしてください。端末から自動的にアプリをアンインストールすることはできません。

- **「VPP設定」画面に「不明なVPP利用ユーザー」が表示される場合があります。**

以前利用していたMDMツールが、VPP利用ユーザーの情報をVPP自体から削除していなかった場合、「VPP設定」画面のVPP利用ユーザー一覧に「不明なVPP利用ユーザー」が表示される場合があります。このユーザー情報は、LanScope Anでは管理できません。LanScope Anで統一して管理するために、次の手順で削除して、あとの手順でユーザーを招待しなおしてください。

1. 管理コンソールにログインし、「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。
2. 「不明なVPP利用ユーザーを削除」をクリックします。
※不明なVPP利用ユーザーが一覧にない場合、ボタンは表示されません。
3. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



- **LanScope AnでVPP機能を利用中に別のMDMツールにVPPトークンを登録して利用した場合、次にLanScope AnにVPPトークンを登録すると、次のメッセージが表示されます。**

引き続きLanScope AnでVPPの管理を行う場合は「OK」をクリックします。

トークンが他のシステムに書き換えられています。LanScope Anでの管理を引き続き行います。
よろしいですか？（OK・キャンセル）

ユーザーベース方式でアプリを端末に配信する

VPPストアで購入したアプリやブックの情報を管理コンソールに反映し、端末に配信します。

- 3-1 アプリ・ブックを配信したい端末を招待する
- 3-2 端末利用者が招待を承諾したかを確認する
- 3-3 Apple IDを変更した端末がないか確認する
- 3-4 購入したアプリ・ブックの方法を反映する
- 3-5 アプリ・ブックを端末に配信する

guide

3

アプリ・ブックを配信したい端末を招待する

3-1



VPPストアで購入したアプリ・ブックを配信したい端末を招待します。利用者が端末側で招待を承諾すると、管理者は**承諾した時点で端末に登録されているApple ID(と端末の組み合わせ)に対して**、管理コンソールからアプリ・ブックを配信できるようになります。

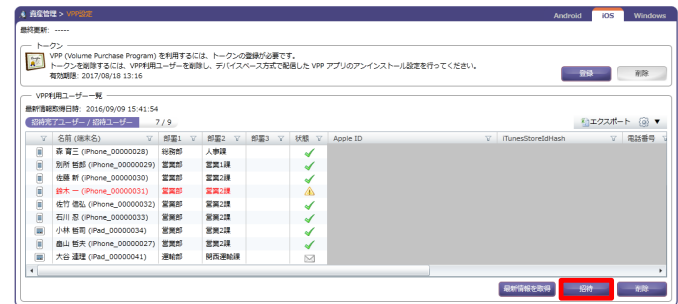
端末に登録されているApple IDを確認・変更する方法

iOS端末の「設定」アプリを起動し、[iTunes & App Store]から確認・変更できます。

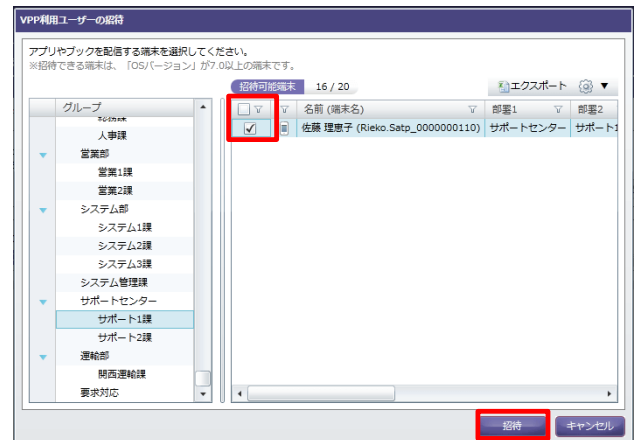
◆管理コンソール側(招待する側)の操作

次の手順でアプリやブックを配信したい端末を招待します。

1. 「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。
2. 「招待」をクリックします。



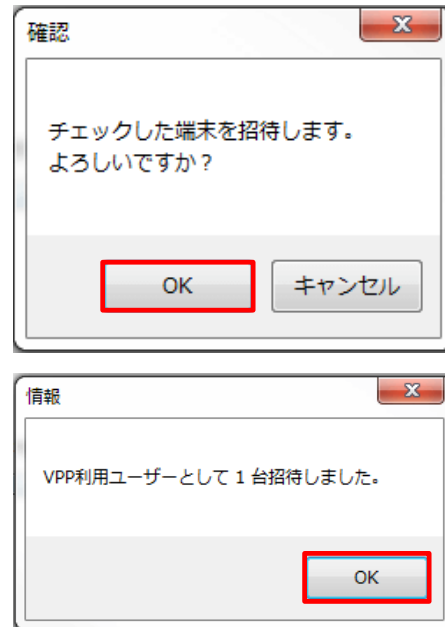
3. 招待したい端末利用者にチェックを入れて「招待」をクリックします。



◆ポイント

- 招待する端末の台数に制限はありません。
- 必要環境を満たしている端末のみ選択できます。iOS 7未満の端末はVPP機能に対応していないため選択できません。OSバージョンが未取得の場合も同様です。
- 構成プロファイルなどで「App Store」の使用を許可していない(アプリのインストールを禁止している)端末をVPPに招待することはできません。
- 招待を承諾済みの端末は、初期状態では非表示になっています。「招待」列のフィルタアイコンから表示することも可能です。

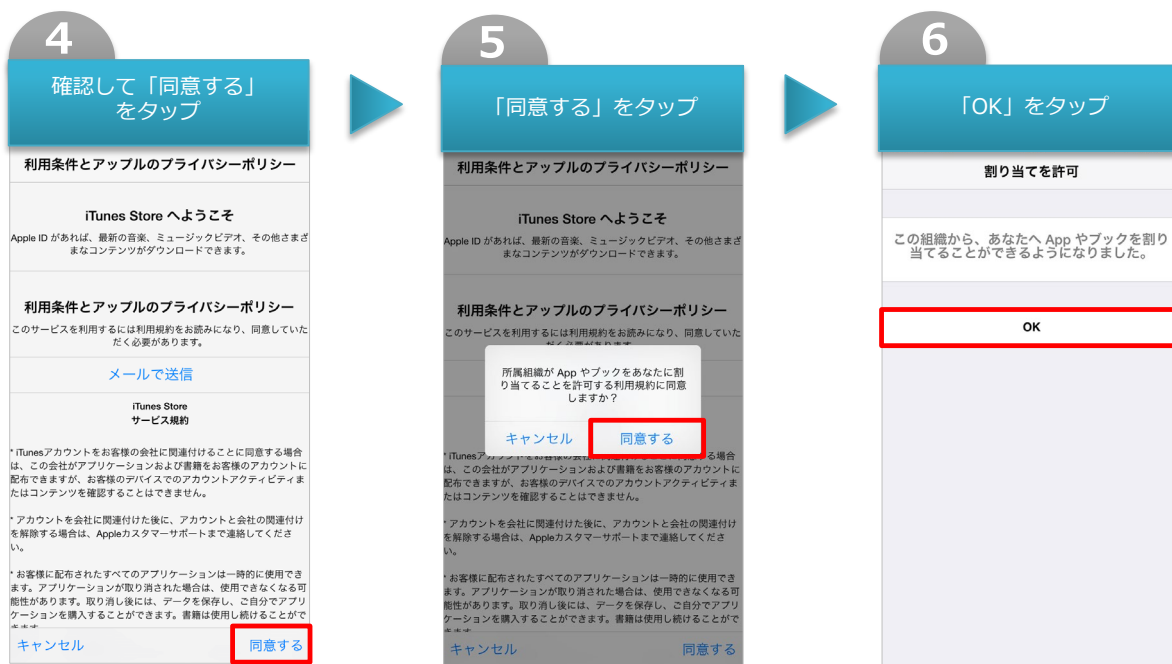
4. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



◆端末側(招待された側)の操作

端末側で招待を承諾する方法は次のとおりです。





端末にApple IDを設定しているにもかかわらず、右のような画面が表示されて、端末側で承諾に失敗する場合は、時間を置いて再試行するか、端末上でApple IDを一旦サインアウトしたあと、再度サインインして招待を承諾してください。

Apple IDをサインアウト・サインインしたい場合は、端末の「設定」アプリを起動し、[iTunes & App Store]をタップして、Apple ID欄をタップします。



◆ポイント

端末側で招待を承諾せず「キャンセル」をタップした場合、An構成プロファイルインストールから12時間周期で実施されている、端末からの資産情報収集のタイミングで、再度ダイアログが表示されます。

◆注意

VPP機能（ユーザーベース方式）では、Apple IDと端末の組み合わせをもとにしてアプリやブックのライセンスを管理しています。

したがって、**端末に登録されているApple IDを、招待を承諾した時点のものから変更すると、アプリやブックを配信できなくなります。**

招待を承諾したあとで、端末に登録されているApple IDを(「設定」アプリの「iTunes & App Store」などから)変更した場合は、再度、管理コンソール側でその端末を招待し、端末側で招待を承諾してください。

VPP機能におけるApple IDの考え方については「1-1 VPP機能を利用する前に確認する -ユーザーベース方式の注意事項 - ■ Apple IDについて」(p.9)を参照してください。

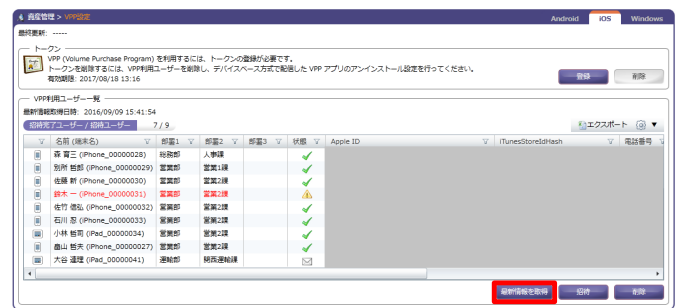
端末利用者が招待を承諾したかを確認する

3-2



端末利用者がVPPへの招待を承諾したか、管理コンソール側で確認します。承諾を端末利用者に任せていて端末が手元にない場合でも、承諾の状況を把握できます。

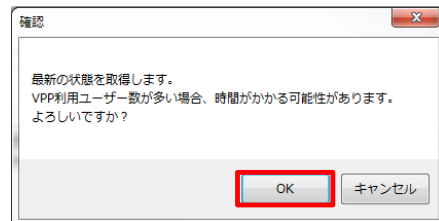
1. 「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。
2. 最新の情報を反映するために「最新情報を取得」をクリックします。



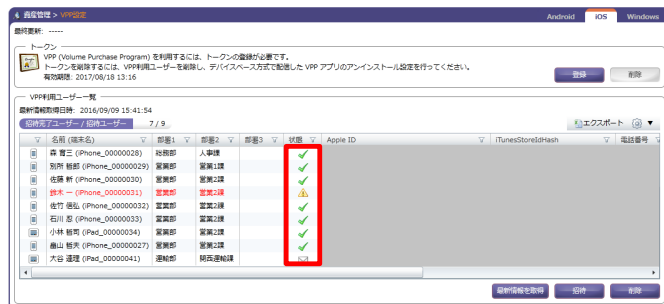
◆ポイント

「最新情報を取得」をクリックしなかった場合でも、最後に情報を取得した日時(手動で情報を取得したことがない場合はVPPトークンを登録した日時)から12時間周期で情報が更新されます。





3. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



4. 「状態」列を確認して承諾の状況を確認します。
アイコンの意味は次のとおりです。



【状態アイコン】

アイコン	ステータス
	招待中です。端末利用者はVPPへの招待をまだ承諾していません。
	端末利用者はVPPへの招待を承諾済みです。
	<p>端末側で招待を承諾した時のiTunesStoreIdHashと、[資産管理]-[資産情報一覧]のiTunesStoreIdHashが異なるため、VPP Storeで購入したアプリ・ブックを配信できません。 iTunesStoreIdHashは、Apple IDが暗号化された情報です。したがって「端末側で招待を承諾した時のApple ID」とは別のApple IDが端末に登録されている可能性があります。現在登録されているApple IDを今後も利用する場合は、管理コンソールから再度その端末を招待して、端末側で招待を承諾してください。</p> <p>なお、このアイコンが表示される(=招待承諾時と現在のiTunesStoreIdHashが異なることを検知できる)のはiOS 8以上の端末のみです。iOS 7.xの端末の場合、このアイコンは表示されませんが、アプリの配信に失敗します。</p> <p>※ iOS 7.xの端末にブックを配信することはできません。 ※ iTunesStoreIdHashの詳細については「1-1 VPP機能を利用する前に確認する - ユーザーベース方式の注意事項 - ■ iTunesStoreIdHashについて」(p.9)を参照してください。</p>
	<p>不明なVPP利用ユーザーです。別のMDMツールでVPPを利用していたことがあり、その情報がVPP自体に残っている場合に表示されます。詳細は「2-2 VPPトークンを管理コンソールにアップロードする - ◆以前別のMDMツールでVPPを利用したことがある場合」(p.17)を参照してください。</p>

Apple IDを変更した端末がないか確認する

3-3



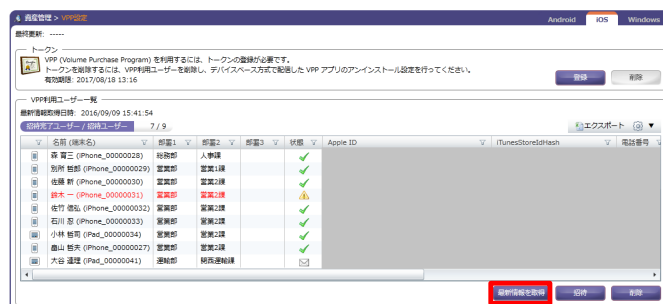
VPP機能（ユーザーベース方式）は「VPPへの招待を承諾した時点のApple IDと端末の組み合わせ」に対してアプリ・ブックを配信する仕様のため、端末側に登録されているApple IDが変更されると、配信に失敗します。端末に配信する前に、Apple IDが変更された端末がないかを確認して対処します。

※Apple IDが変更されたかどうかは、iOS 8以降の端末のみ確認が可能です。iOS 7.xの端末の場合は、配信に失敗した時点で確認できます。関連情報は「5-2 アプリ・ブックの配信が完了しない時に対処する」（p.39）を参照してください。

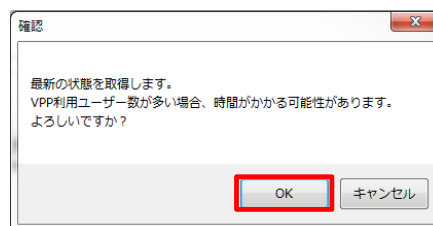
1. 「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。
2. 最新の情報を反映するために「最新情報を取得」をクリックします。


◆ポイント

「最新情報を取得」をクリックしなかった場合でも、最後に情報を取得した日時(手動で情報を取得したことがない場合はVPPトークンを登録した日時)から12時間周期で情報が更新されます。



3. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



4. 「状態」列を確認して「」(再度招待が必要)が表示されている場合は、次のいずれかの方法で対処してください。

※ほかの「状態」アイコンについては「3-2 端末利用者が招待を承諾したかを確認する」(p.24)を参照してください。

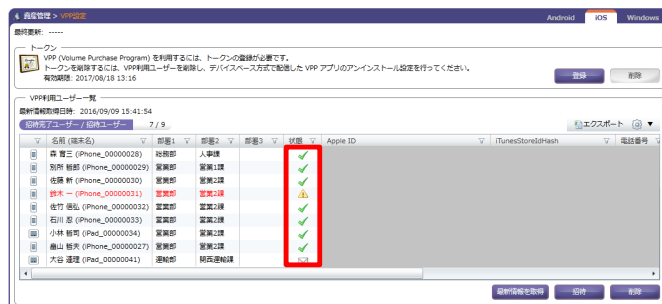
・招待承諾時点のApple IDを利用する必要がある場合

端末利用者にApple IDを招待承諾時点のものに戻すよう促してください(端末の「設定」アプリをタップして、「iTunes&App Store」から変更可能です)。

Apple IDを元に戻したあと、12時間周期で実施されている資産情報の収集が完了すれば、アプリ・ブックが配信できるようになります。最後に資産情報が収集された日時は、[資産管理]-[資産情報一覧]-[詳細列クリック]-[最新資産情報取得日時]から確認できます。

・現在設定しているApple IDを今後も利用する場合

「3-1 アプリ・ブックを配信したい端末を招待する」(p.20)以降の手順にしたがって、再度その端末を招待し、端末側で招待を承諾してください。招待が承諾されれば、アプリ・ブックが配信できるようになります。



購入したアプリ・ブックの情報を反映する

3-4



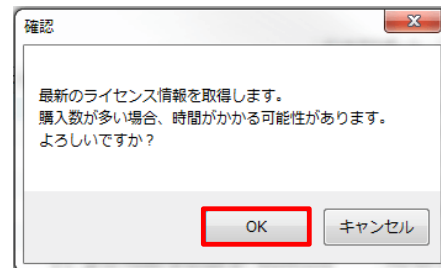
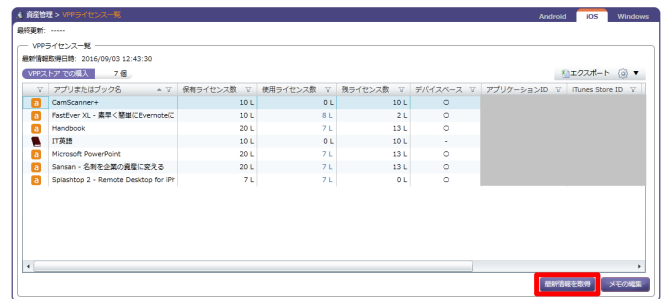
端末に配信する前に、VPPストアで購入したアプリ・ブックの情報を管理コンソールに反映させます。

1. 「資産管理」メニューを選択して「VPPライセンス一覧」をクリックします。
2. 「最新情報を取得」をクリックします。

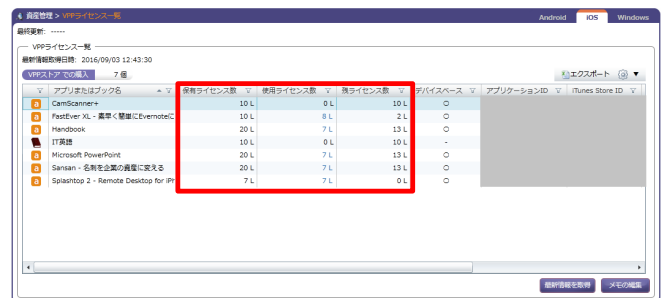
◆ポイント

「最新情報を取得」をクリックしなかった場合でも、最後に情報を取得した日時(手動で情報を取得したことがない場合はVPPトークンを登録した日時)から12時間周期で情報が更新されます。

3. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



4. 各アプリの「保有ライセンス数」「使用ライセンス数」「残ライセンス数」の最新情報が反映されます。なお、「使用ライセンス数」列の件数をクリックするとそのアプリをインストールしている端末が確認できます。



◆注意

- ・VPPストアでMacアプリを購入していたとしても、LanScope Anには表示されません。
- ・VPPストアでライセンスを購入すると、約1分後、AppleからVPPアカウント宛に購入完了のメールが通知されます。この購入完了のメールが通知されてから、管理コンソールに反映してください。
購入通知のメールが通知される前に管理コンソールに反映すると、正しく情報が反映されない場合があります。

アプリ・ブックを端末に配信する

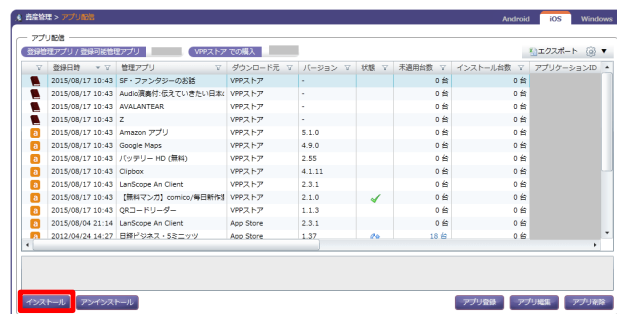
3-5



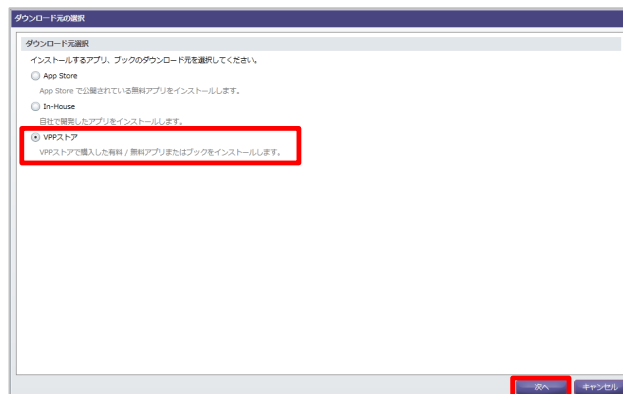
VPPストアで購入したアプリ・ブックを、ユーザーベース方式で端末に配信します。

1. 「資産管理」メニューを選択して「アプリ配信」をクリックします。

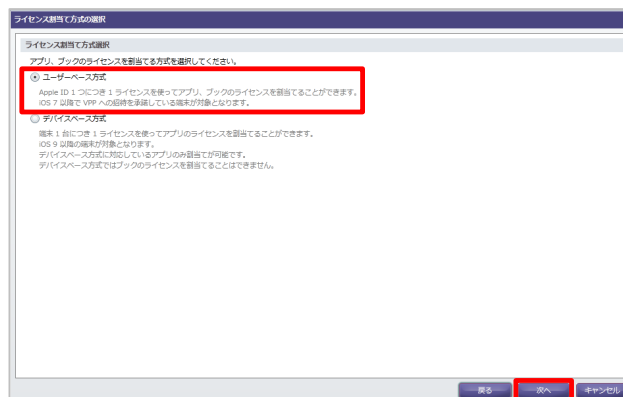
2. 「インストール」をクリックします。



3. 「VPPストア」を選択して「次へ」をクリックします。



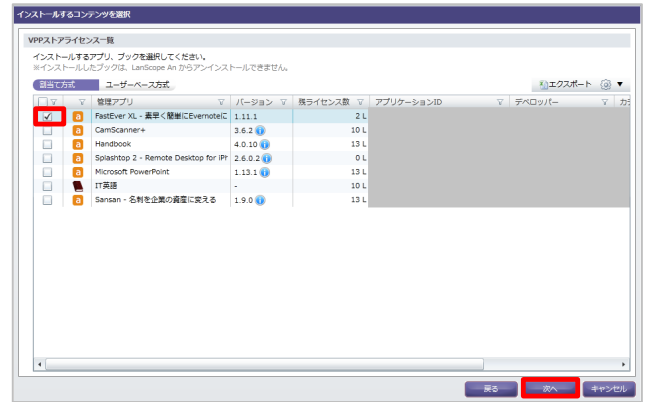
4. 「ユーザーベース方式」を選択して「次へ」をクリックします。



- インストールしたいアプリ・ブックにチェックを入れて「次へ」をクリックします。

◆注意

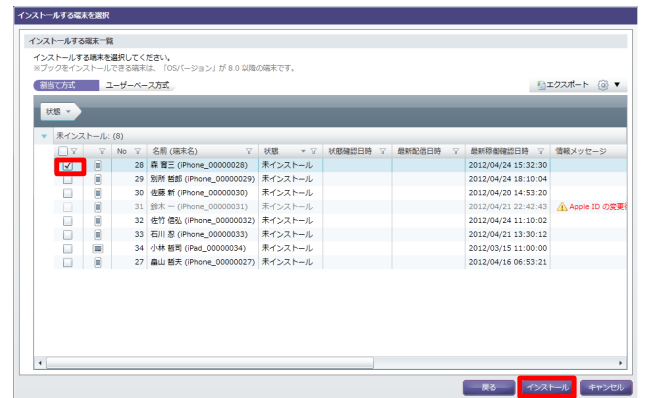
- ・ブックは配信のみ可能です。VPP自体の仕様により、配信した時点でライセンスは消費され、アンインストール(ライセンスの回収)はできません。
- ・すでにApp Storeにある同じアプリを配信したことがある場合、VPPストアのアプリは配信できません。配布したい場合は、App Storeのアプリを、管理コンソールを通じてアンインストールしてください。詳細な手順は別紙「アプリ配信ガイド for iOS」を参照してください。



- アプリ・ブックをインストールしたい端末にチェックを入れて「インストール」をクリックします。

◆注意

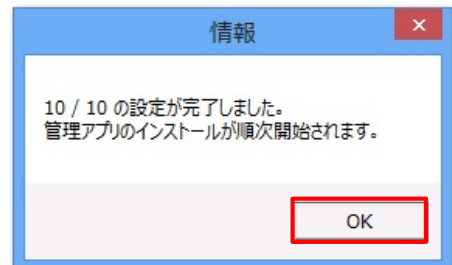
- ・構成プロファイルなどで「App Store」の使用を許可していない(アプリのインストールを禁止している)端末に対して、アプリを配信することはできません。
- ・同一のApple IDに対して配信できるのは、1アプリにつき5台までです(この時1ライセンスのみ消費されます)。6台以上の端末に配信したい場合は、端末に別のApple IDを設定する必要があります。
- ・「情報メッセージ」列に「Apple ID の変更後は再度招待が必要です。招待後の情報反映には最大で12時間かかります。」や、「Apple ID が変更されているため、管理アプリを配信できません。VPP設定画面から再度招待しなすか Apple ID を元に戻してください。」と表示されて配信できない場合は、p.36を参照して対処してください。



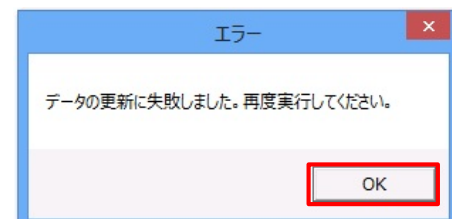
- 配信の結果をダイアログで表示します。確認したら「OK」をクリックして閉じます。(失敗の場合は「OK」をクリックすると「アプリ配信」画面に戻ります。)

※インストールが失敗する場合、サーバーが停止していたりネットワークが不安定な場合が考えられます。対処方法としては、ネットワークが切断されていないか確認する、または、しばらく待ってからご利用ください。

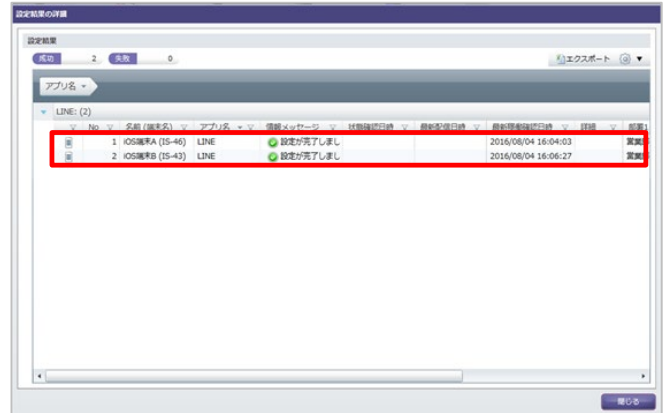
【インストールが成功した場合のダイアログ】



【インストールが失敗した場合のダイアログ】



5. 「設定結果の詳細」画面で、配信結果の詳細を確認します。



以上でVPPストアで購入したアプリ・ブックをユーザーベース方式で端末に配信する設定は完了です。

◆ポイント

- 端末側での操作について
 - ・ アプリが配信されると、端末側にインストールダイアログが表示されます(右図)。インストールをタップして、Apple IDのパスワードを入力し、インストールを実行します(※)。
 - ・ ブックはダイアログが表示されることなくインストールされます。「iBooks」アプリから確認できます。
- 端末側でインストールをキャンセルした場合
- 端末側にアプリが配信された後、アプリをアンインストールした場合

An構成プロファイルのインストールから12時間周期で実施されている、端末からの資産情報収集のタイミングで、再度アプリが配信されます。



デバイスベース方式でアプリを端末に配信する

VPPストアで購入したアプリの情報を管理コンソールに反映し、端末に配信します。

4-1 アプリを端末に配信する

guide

4

アプリを端末に配信する

4-1

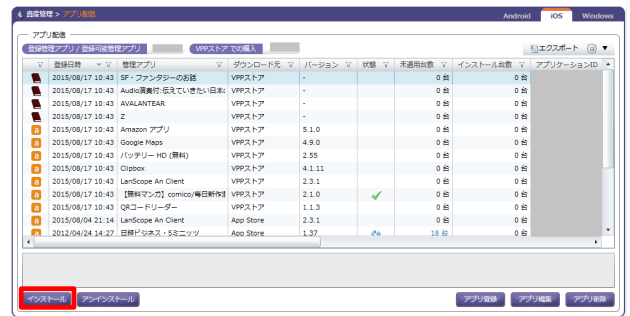


VPPストアで購入したアプリを、デバイスベース方式で端末に配信します。

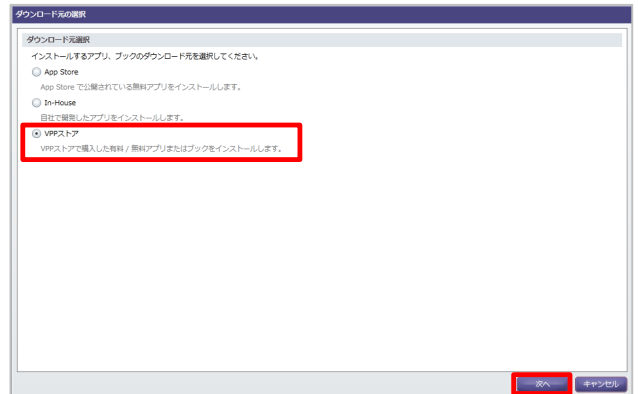
※デバイスベース方式でブックや非公開になったVPPアプリを配信することはできません。

1. 「資産管理」メニューを選択して「アプリ配信」をクリックします。

2. 「インストール」をクリックします。



3. 「VPPストア」を選択して「次へ」をクリックします。



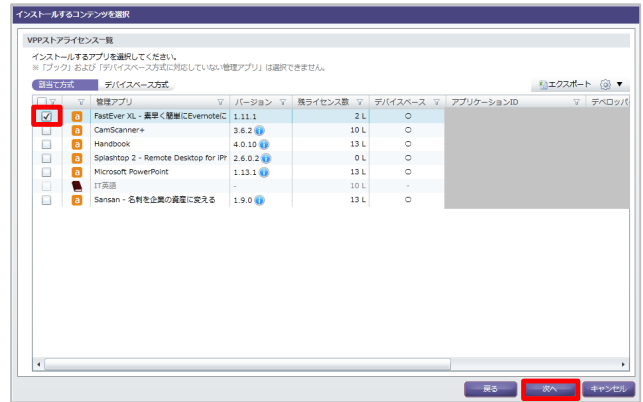
4. 「デバイスベース方式」を選択して「次へ」をクリックします。



5. インストールしたいアプリにチェックを入れて「次へ」をクリックします。

◆注意

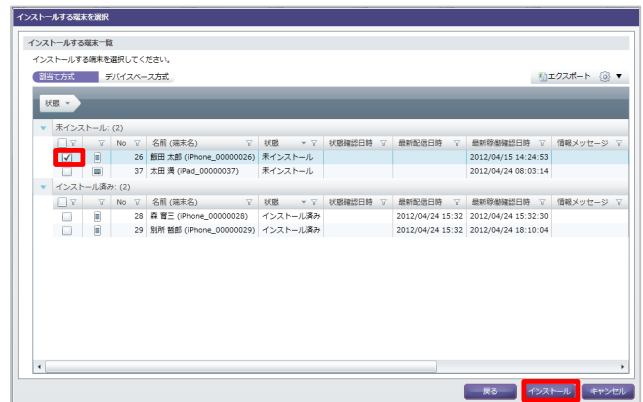
- すでにApp Storeにある同じアプリを配信したことがある場合、VPPストアのアプリは配信できません。配布したい場合は、App Storeのアプリを、管理コンソールを通じてアンインストールしてください。詳細な手順は別紙「アプリ配信ガイド for iOS」を参照してください。



6. アプリをインストールしたい端末にチェックを入れて「インストール」をクリックします。

◆注意

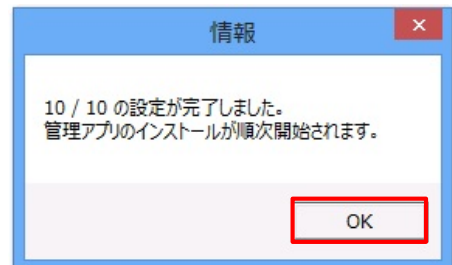
- 「情報メッセージ」列に「Apple ID の変更後は再度招待が必要です。招待後の情報反映には最大で12時間かかります。」や、「Apple ID が変更されているため、管理アプリを配信できません。VPP設定画面から再度招待しなすか Apple ID を元に戻してください。」と表示されて配信できない場合は、p.36を参照して対処してください。



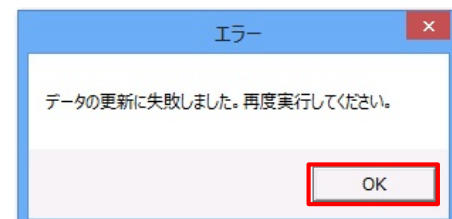
7. 配信の結果をダイアログで表示します。確認したら「OK」をクリックして閉じます。(失敗の場合は「OK」をクリックすると「アプリ配信」画面に戻ります。)

※インストールが失敗する場合、サーバーが停止していたりネットワークが不安定な場合が考えられます。対処方法としては、ネットワークが切断されていないか確認する、または、しばらく待ってからご利用ください。

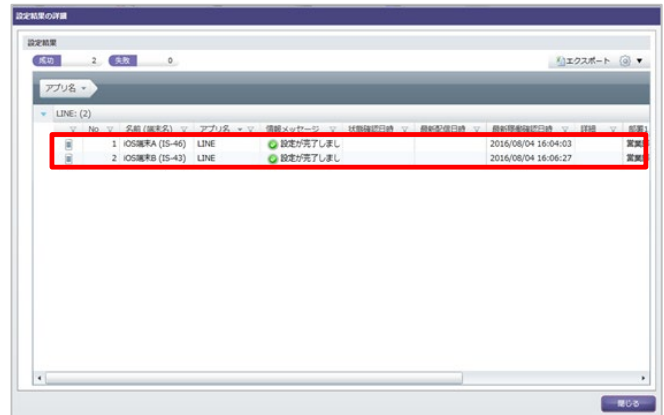
【インストールが成功した場合のダイアログ】



【インストールが失敗した場合のダイアログ】



5. 「設定結果の詳細」画面で、配信結果の詳細を確認します。



以上でVPPストアで購入したアプリをデバイスベース方式で端末に配信する設定は完了です。

◆ポイント

- 端末側での操作について
 - ・アプリが配信されると、端末側にインストールダイアログが表示されます(右図)。インストールをタップして、インストールを実行します。
※端末が「監視モード」に設定されている場合は、アプリをサイレントでインストールできます。
- 端末側でインストールをキャンセルした場合
- 端末側にアプリが配信された後、アプリをアンインストールした場合

An構成プロファイルのインストールから12時間周期で実施されている、端末からの資産情報収集のタイミングで、再度アプリが配信されます。



配信結果を確認して対処する

ユーザーベース方式、デバイスベース方式で配信したアプリ・ブックの配信結果を管理コンソールから確認します。配信が完了しない場合は、配信結果の内容をもとに対処します。

- 5-1 アプリ・ブックの配信結果を確認する
- 5-2 アプリ・ブックの配信が完了しない時に
対処する

guide

5

アプリ・ブックの配信結果を確認する

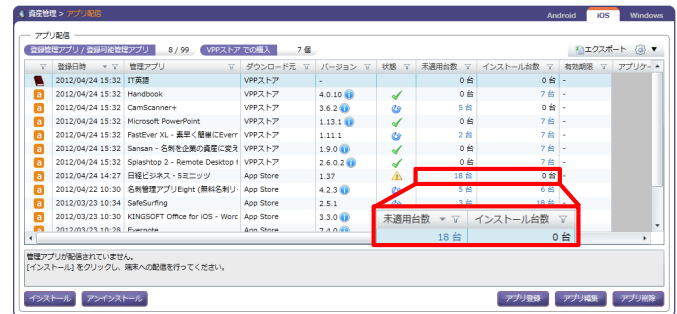
5-1



アプリ・ブックの配信結果を次の方法で確認します。

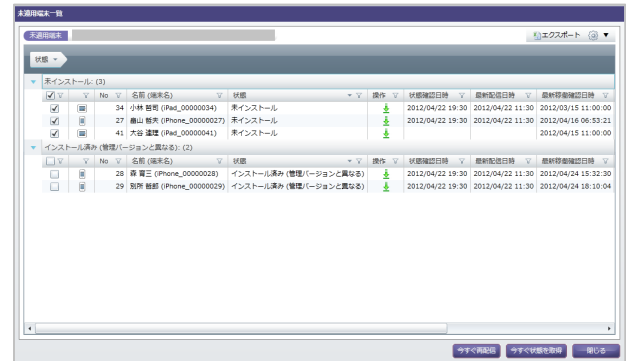
1. 「資産管理」メニューを選択し「アプリ配信」をクリックします。
2. 「管理アプリ」列から該当のアプリ・ブックを確認し、「未適用台数」と「インストール台数」を確認します。

未適用端末がある場合は詳細を確認するために「未適用台数」をクリックします。



3. 未適用端末の一覧画面で「状態」を確認します。表示された「状態」をもとに、「5-2 アプリ・ブックの配信が完了しない時に対処する」(p.39)を確認して対処します。

※「状態アイコン」「未適用台数/インストール台数」「配信詳細結果」などの定義については、次のページを参照してください。



◆ポイント

アプリ・ブックの最新の配信結果を、今すぐ管理コンソールに反映したい場合

アプリ・ブックの配信結果は、通常、(LanScope An導入時にインストールする)An構成プロファイルの登録から12時間周期で更新されます。すぐに確認したい場合は「◆手順A：すぐに配信アプリ・ブックのインストール状況を確認する」(p.42)の手順で更新してください。

◆ 各項目の定義

【アプリ配信】

登録日時	管理アプリ	ダウンロード元	バージョン	状態	未適用台数	インストール台数
2016/08/12 13:58	iPhoneを探す	App Store	4.0	緑のチェックマーク	0 台	0 台
2012/04/24 15:32	IT英語	VPPストア	-	青い回転矢印	0 台	0 台
2012/04/24 15:32	Handbook	VPPストア	4.0.15	青い回転矢印	7 台	7 台

(A)

(B)

【未適用端末一覧】

状態	No.	名前 (端末名)	状態	操作
緑のチェックマーク	34	小林 健司 (iPad_000000034)	未インストール	緑のダウンロードアイコン
青い回転矢印	27	島山 健夫 (iPhone_000000027)	未インストール	緑のダウンロードアイコン
青い回転矢印	41	大谷 達彦 (iPad_000000041)	未インストール	緑のダウンロードアイコン

(C)★

【状態アイコン(A)の意味】

アイコン	(A)状態
	配信が完了しています。
	配信中です。
なし	配信している端末がありません。

【台数のカウント(B)と状態(C)の関係】

(B)台数	(C)状態
未適用台数	①・②・③
インストール台数	②・③・④

(A) 状態：該当するアプリ・ブックの配信ステータスをアイコンで表示します。

(B) 台数：

- ・未適用台数：
(C)の①・②・③に該当する端末台数を表示します。
- ・インストール台数：
(C)の②・③・④に該当する、アプリ・ブックがインストールされている端末台数を表示します。

※(C)が②または③の場合、「未適用台数」「インストール台数」の両方にカウントされます。

(C) 状態：端末ごとの詳細状況を表示します。

- ①未インストール
：配信したアプリ・ブックがまだインストールされていない端末
- ②インストール済み（手動インストール）
：配信以前に端末利用者がアプリ・ブックを手動でインストールしていた端末
- ③インストール済み（管理バージョンと異なる）
：配信設定時に指定した管理バージョンと一致していないバージョンのアプリがインストールされている端末
- ④インストール済み：配信したアプリ・ブックが正常にインストールされた端末

★ (C) で状態ごとに端末を確認する場合、グルーピング機能を有効にする必要があります。
歯車アイコンよりグルーピングを有効にし、「状態」項目を領域内にドラッグ&ドロップしてください
(初期状態：有効)。詳細な手順は「ユーザズガイド for iOS」を確認してください。

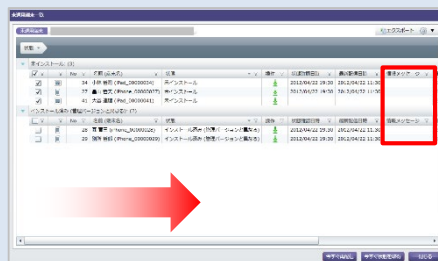
アプリ・ブックの配信が完了しない時に対処する

アプリ・ブックが配信されない場合は、「未適用台数」列の件数をクリックした時に表示される、「未適用端末一覧」画面の「状態」に応じて、次の通り対処します。

● 状態が「未インストール」の場合

「未適用端末一覧」の「情報メッセージ」列を確認します。

ここにメッセージが表示されている場合は『「情報メッセージ」欄にメッセージが表示されている場合』を、メッセージが表示されていない場合は『「情報メッセージ」欄が空欄の場合』を確認します。



● 「情報メッセージ」欄が空欄の場合

アプリ・ブックがインストールされていません。アプリ・ブックがまだ配信されていないか、アプリの場合、端末にインストールダイアログが表示された時に「戻る」をタップした可能性があります。

1. 状態を更新してもインストール済みにならないかを確認します。

◆手順A：すぐに配信アプリ・ブックのインストール状況を確認する(p.42)を参照します。

2. 1.の更新を行ってもインストール済みにならない場合で、（ブックではなく）アプリの場合は、端末利用者にインストールダイアログ(p.35)が表示された際「戻る」をタップしていないかを確認します。
「戻る」をタップしていた場合は、インストールダイアログが表示された時に「インストール」をタップする必要がある旨を伝え、必要に応じて「今すぐ再配信」(※1)を設定してすぐにアプリを配信します。

◆手順B：すぐにアプリ・ブックを再配信する(p.43)を参照します。

※1 「今すぐ再配信」を設定しなかった場合でも、12時間周期で端末にインストールダイアログが表示されます。

・「情報メッセージ」欄にメッセージが表示されている場合

メッセージに応じて、次のとおり対処します。

【メッセージ】

管理アプリが App Store に見つかりません。管理アプリが App Storeに公開されていること、または配信対象の端末と互換性があることを確認してください。

【対処方法】

配信したいアプリがApp Storeに存在しているか、また、配信先の端末に対応したアプリであるかを確認してください。

【メッセージ】

端末にインストールされているプロファイルによって、アプリのインストールが禁止されています。インストールされているプロファイルの構成内容を確認してください。

【対処方法】

「プロファイル配信」機能などを使って端末に適用した構成プロファイルに、App Storeの利用を制限する設定が含まれている場合に表示されます。アプリの配信が必要な場合は、一旦該当の構成プロファイルをアンインストールしてから配信してください。

【メッセージ】

- Apple ID の変更後は再度招待が必要です。招待後の情報反映には最大で12時間かかります。
- Apple IDが変更されているため、管理アプリを配信できません。VPP設定画面から再度招待し直すか Apple IDを元に戻してください。

いずれも、端末のApple IDが、VPPへの招待を承諾した時点のものから変更されている場合に表示されます。

※前者は「招待を承諾した時点のiTunesStoreIdHash(=Apple IDを暗号化した値)」と、「資産情報一覧画面に取得されているiTunesStoreIdHash」が異なる場合に、後者は、「招待を承諾した時点のiTunesStoreIdHash」と、「資産情報一覧画面に取得されているiTunesStoreIdHash」は同一であるものの、実際にアプリを配信しようとした時に、端末に異なるApple IDが設定されていることを検知して失敗した場合に表示されます。

【対処方法】

次のいずれかの方法で対処してください。

◆招待承諾時点のApple IDを利用する必要がある場合

端末利用者にApple IDを招待承諾時点のものに戻すよう促してください(端末の「設定」アプリをタップして、「iTunes&App Store」から変更可能です)。

Apple IDを元に戻したあと、12時間周期で実施されている資産情報の収集が完了すれば、アプリ・ブックが配信できるようになります。最後に資産情報が収集された日時は、[資産管理]-[資産情報一覧]-[詳細列クリック]-[最新資産情報取得日時]から確認できます。

◆現在設定しているApple IDを今後も利用する場合

「3-1 アプリ・ブックを配信したい端末を招待する」(p.20)以降の手順にしたがって、再度その端末を招待し、端末側で招待を承諾してください。招待が承諾されれば、アプリ・ブックが配信できるようになります。

● 状態が「インストール済み(手動インストール)」の場合

LanScope Anのアプリ配信以外の方法(手動もしくは以前他社MDMツールで配信したなど)で、既に端末にアプリがインストールされています。

該当アプリをLanScope Anで管理したい(※2)場合は、端末から手動でアプリをアンインストールします。必要に応じて「今すぐ再配信」(※3)を設定してすぐにアプリを配信します。

◆手順B：すぐにアプリ・ブックを再配信する(p.43)を参照します。

※2 管理コンソールからアプリのアンインストール設定(p.47)を行ったり、端末からアプリがアンインストールされた場合に自動的に再配信したりすることを指します。アプリをLanScope Anで配信した場合のみ、これらの機能を利用できます。

※3 「今すぐ再配信」を設定しなかった場合でも、12時間周期で端末にインストールダイアログが表示されます。

● 状態が「インストール済み(管理バージョンと異なる)」の場合

管理コンソールに登録しているアプリと異なるバージョンのアプリがインストールされています。各端末のアプリを最新バージョンで統一したい場合は、次の方法で管理コンソールと端末のバージョンを統一します。

● 管理コンソールに登録しているアプリのバージョンが古い場合

管理コンソールに登録しているアプリのバージョンを最新のものに更新します。更新が完了して管理コンソールと端末のアプリのバージョンが一致すれば、各端末の状態が「インストール済み」に変わります。

「6-1 アプリのバージョンを確認する」(p.45)を参照します。

● 端末にインストールされているアプリのバージョンが古い場合

端末利用者に連絡して「App Store」からアプリのアップデートを実施するよう促します。アップデートが完了したあと、管理コンソール側で、必要に応じて「今すぐ状態を取得」(※3)を設定して状態を確認します。

◆手順A：すぐに配信アプリ・ブックのインストール状況を確認する(p.42)を参照します。

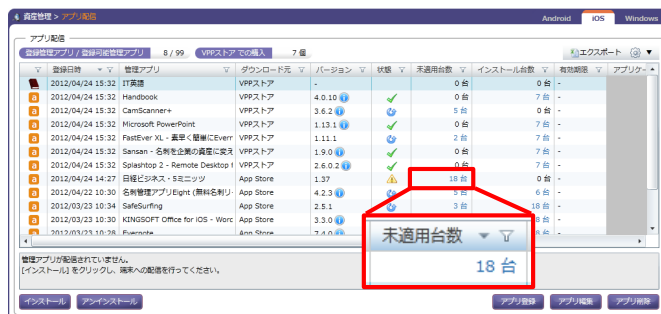
管理コンソールと端末のアプリのバージョンが一致すれば、状態が「インストール済み」に変わります。

※4 「今すぐ状態を取得」を設定しなかった場合でも、An構成プロファイルの登録から12時間周期で更新されます。

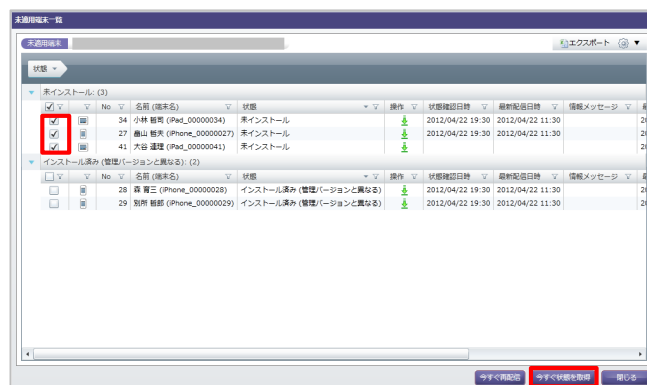
◆手順A：すぐに配信アプリ・ブックのインストール状況を確認する

アプリ・ブックの配信結果は、通常An構成プロファイルの登録から12時間周期で更新されますが、すぐに確認したい場合は次の手順を実施します。

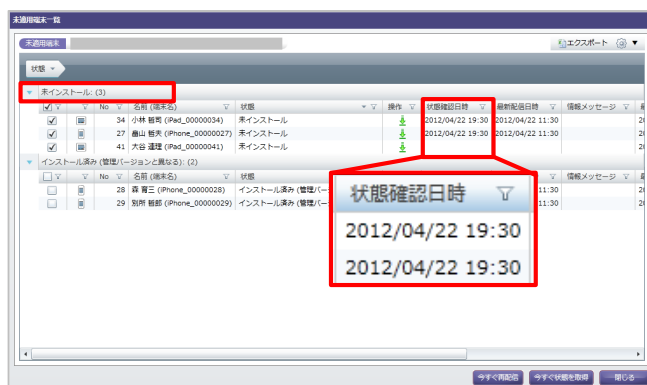
1. 「資産管理」メニューを選択し「アプリ配信」をクリックします。
2. 「未適用台数」列の件数をクリックします。



3. 状態を取得したい端末にチェックを入れて「今すぐ状態を取得」をクリックします。



4. 管理コンソール右上のリロードボタンをクリックした時に、「未適用端末一覧」もしくは「インストール済み端末一覧」の「状態確認日時」が更新されたことを確認して「状態」を確認します。

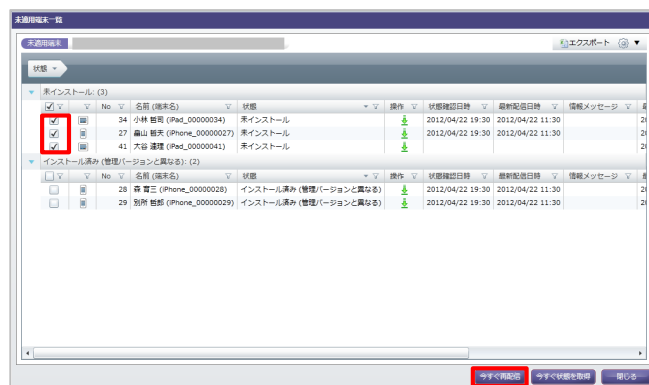
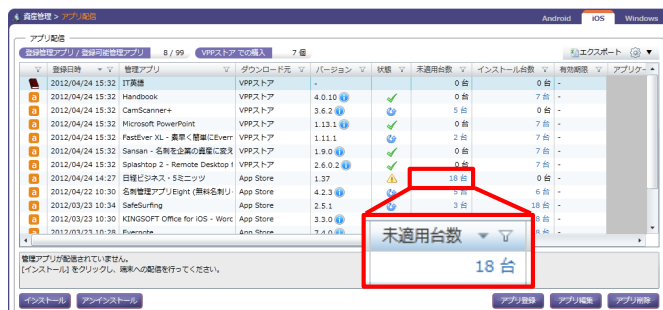


※iOS端末への命令には、Apple社のPush通知サーバであるAPNsを使用しています。APNsの処理能力(仕様未公開)によりPush通知に遅延が発生することがありますが、その場合「今すぐ状態を取得」を設定しても、最大12時間アプリ・ブックのインストール状況が反映されない場合があります。

◆手順B：すぐにアプリ・ブックを再配信する

アプリ・ブックの配信設定を行った場合、すぐにアプリ・ブックが配信されます。端末側でインストールをキャンセルした場合は12時間周期で再配信されます。すぐにアプリ・ブックを再配信したい場合は次の手順を実施します。

1. 「資産管理」メニューを選択し「アプリ配信」をクリックします。
2. 「未適用台数」をクリックすると、「未適用端末一覧」が表示されます。
3. 設定を適用したい端末にチェックを入れて「今すぐ再配信」をクリックします。情報ダイアログは「OK」で閉じます。
4. アプリが配信されると、端末側にインストールダイアログが表示されます。インストールをタップします。



※iOS端末への命令には、Apple社のPush通知サーバであるAPNsを使用しています。APNsの処理能力(仕様未公開)によりPush通知に遅延が発生することがありますが、その場合「今すぐ再配信」を設定しても、最大12時間アプリが配信されない場合があります。

アプリをアップデートする

アプリのバージョンを確認し、最新の状態にアップデートする手順を確認します。

- 6-1 アプリのバージョンを確認する
- 6-2 配信したアプリをアップデートする

guide


6

アプリのバージョンを確認する

6-1



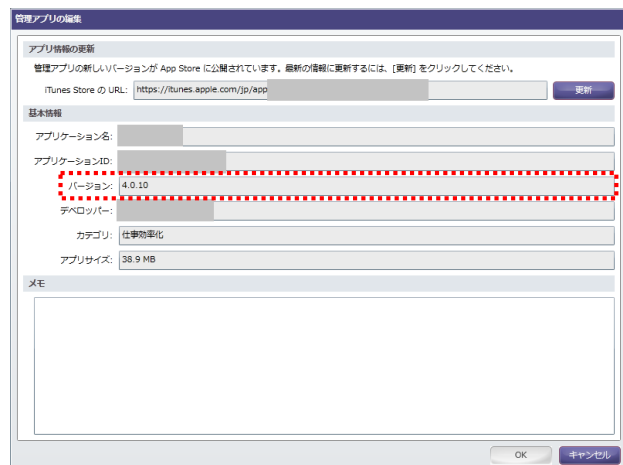
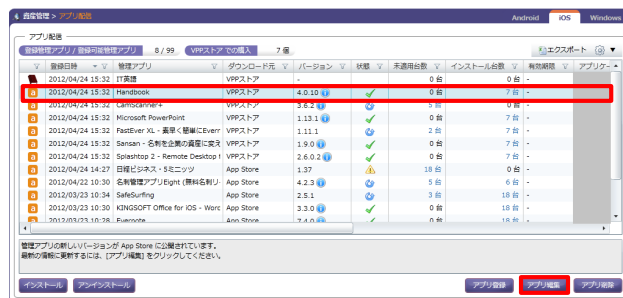
配信したアプリの新しいバージョンが公開された場合、管理コンソールに登録しているアプリのバージョンを最新のものに更新することで、バージョンが古いアプリをインストールしている端末を把握できます。

1. 「資産管理」メニューを選択し「アプリ配信」をクリックします。
2. 新しいバージョンが公開されているアプリは、アプリ配信画面に  アイコンが表示されます。アイコンが表示されているアプリを選択して「アプリ編集」をクリックします。

※アプリの最新バージョンの情報は、24時間周期で管理コンソールに反映されます。

3. 「管理アプリの編集」が開きます。基本情報に記載されている「バージョン」欄でアプリのバージョンを確認します。

配信したアプリをアップデートする場合は、次ページからの「6-2 配信したアプリをアップデートする」を参照します。



配信したアプリをアップデートする

6-2

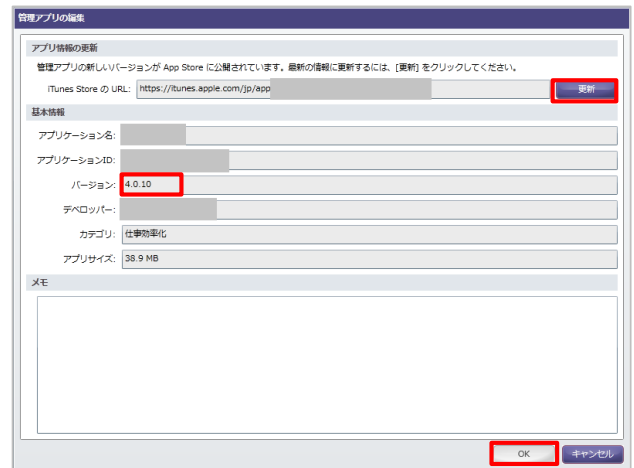
● ユーザーベース方式の場合


ユーザーベース方式で配信したアプリは、管理コンソールからバージョンアップすることはできません。すでに端末にインストールされているアプリは、通常のアプリと同じく、端末の「App Store」アプリからバージョンアップしてください。

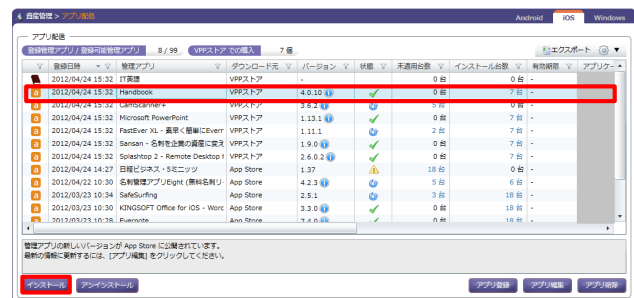
● デバイスベース方式の場合

アップデートが必要なアプリは、以下の手順で配信します。

1. 前ページの手順より、「管理アプリの編集」画面で、iTunes StoreのURLの横に表示されている「更新」をクリックします。
2. バージョンが最新のものに更新されたことを確認して「OK」をクリックします。



3. 「アプリ配信」画面に戻ります。
※このとき、最新バージョンに更新されたアプリの「状態」欄が  マークに変わり、「未適用台数」に最新バージョンがインストールされていない端末台数がカウントされます。
4. 「インストール」をクリックし、アップデートしたアプリをデバイスベース方式で配信します。手順の詳細については、「4. デバイスベース方式でアプリを端末に配信する」(p.32)を参照します。



以上でデバイスベース方式で配信したアプリをアップデートする設定は完了です。

アプリをアンインストールする

アプリが不要になった端末からはライセンスを回収し、ほかの端末に配信できるようにします。

7-1 アプリをアンインストールしてライセンスを回収する

guide

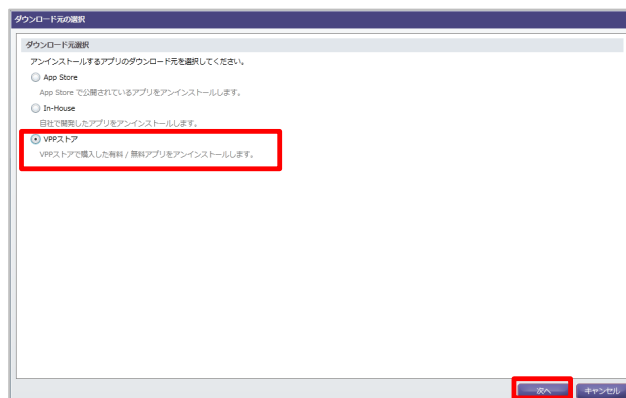
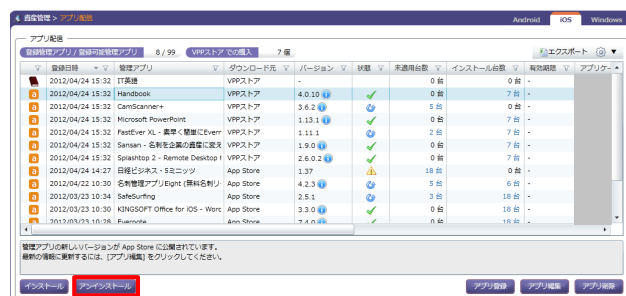


アプリをアンインストールしてライセンスを回収する



アプリを遠隔でアンインストールし、ライセンスを回収します。ライセンスを回収することで、別の端末利用者(端末)にアプリを配信できるようになります。

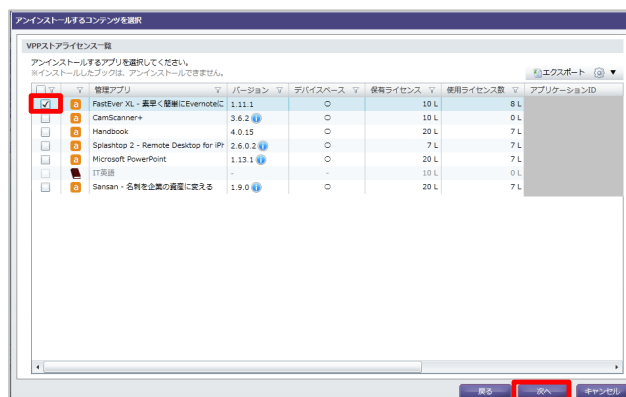
1. 「資産管理」メニューを選択して「アプリ配信」をクリックします。
2. 「アンインストール」をクリックします。
3. 「VPPストア」を選択して「次へ」をクリックします。



4. 端末からアンインストールしてライセンスを回収したいアプリにチェックを入れて「次へ」をクリックします。

◆注意

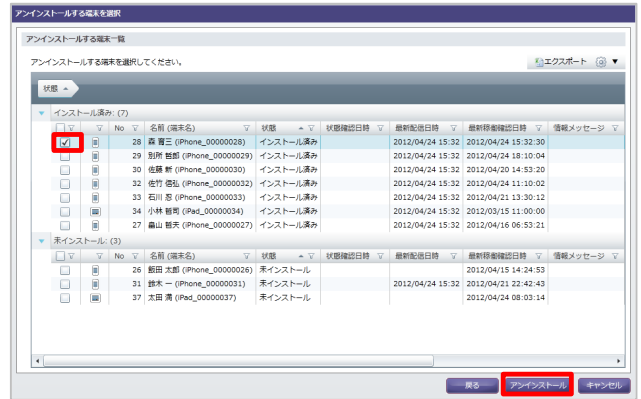
ブックは配信のみ可能です。VPP自体の仕様により、配信した時点でライセンスは消費され、アンインストール(ライセンスの回収)はできません。



- アプリをアンインストールしたい端末にチェックを入れて「アンインストール」をクリックします。

◆注意

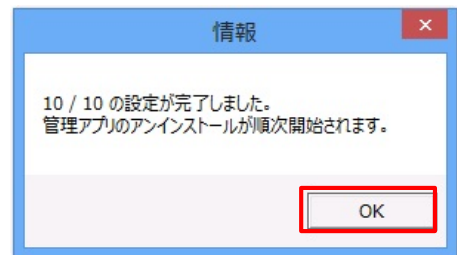
「情報メッセージ」列に「Apple ID の変更後は再度招待が必要です。招待後の情報反映には最大で12時間かかります。」や、「Apple ID が変更されているため、管理アプリを配信できません。VPP設定画面から再度招待しなすか Apple ID を元に戻してください。」と表示されてアンインストールできない場合は、p.36を参照して対処してください。



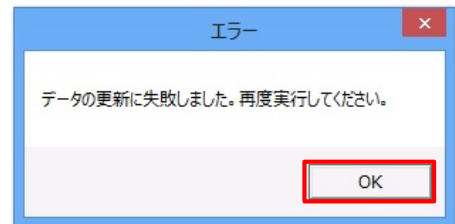
- アンインストールの結果をダイアログで表示します。
確認したら「OK」をクリックして閉じます。
(失敗の場合は「OK」をクリックすると「アプリ配信」画面に戻ります。)

※アンインストールが失敗する場合、サーバーが停止していたりネットワークが不安定な場合が考えられます。
対処方法としては、ネットワークが切断されていないか確認する、または、しばらく待ってからご利用ください。

【アンインストールが成功した場合のダイアログ】

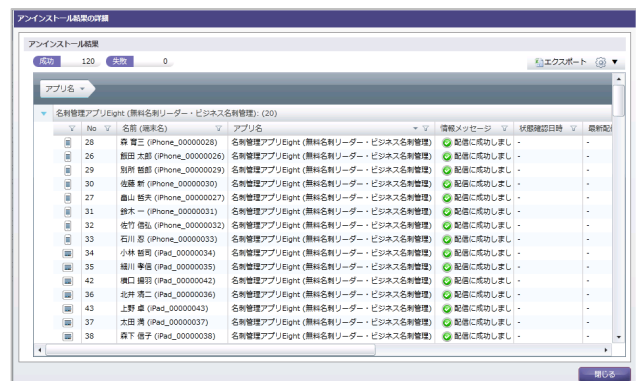


【アンインストールが失敗した場合のダイアログ】



- 「設定結果の詳細」画面で、配信結果の詳細を確認します。

以上で、アプリをアンインストールしてライセンスを回収する手順は完了です。



◆ポイント

- **端末側での操作について**

自動的にアンインストールされるため、端末側で操作する必要はありません。

- **回収したライセンスを別の端末に付与する方法について**

アンインストールして回収したアプリのライセンスを別の端末に付与する場合、配信の手順を参照します。
ユーザーベース方式のアプリの場合は、「3. ユーザーベース方式でアプリを端末に配信する」(p.19) を
デバイスベース方式のアプリの場合は、「4. デバイスベース方式でアプリを端末に配信する」(p.32) を
それぞれ参照してください。

アプリのライセンス割当て方式を変更する

アプリを再インストールせずにライセンスの割当て方式を変更する手順を確認します。

8-1 アプリのライセンス割当て方式を変更する

guide

8

アプリのライセンス割当て方式を変更する

8-1

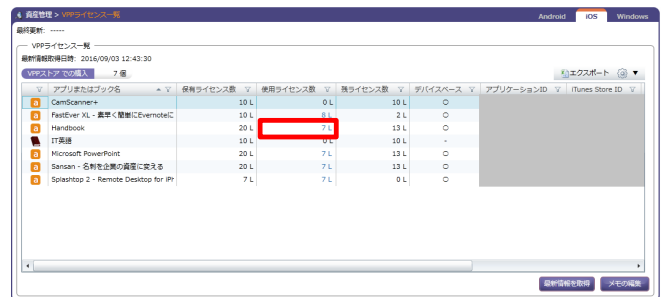


アプリのライセンスの割当て方式を、ユーザーベース方式からデバイスベース方式へ変更する手順を確認します。

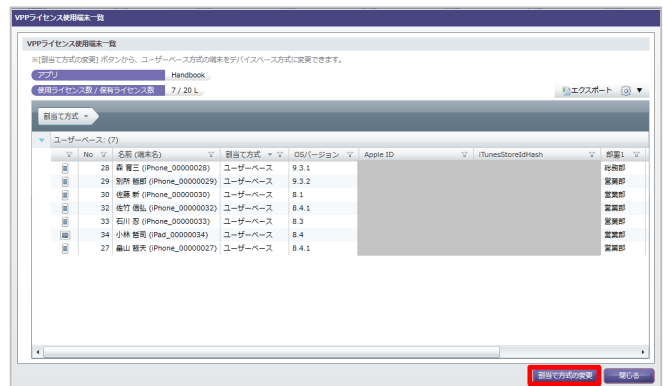
※デバイスベース方式からユーザーベース方式への変更はできません。

1. 「資産管理」メニューを選択して「VPPライセンス一覧」をクリックします。

2. 「使用ライセンス数」の青いリンクの数字をクリックします。



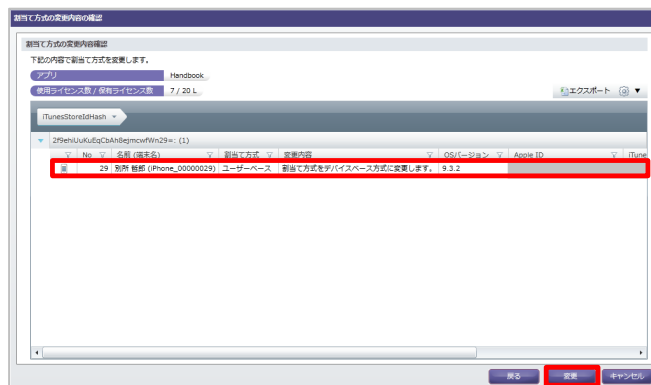
3. 「VPPライセンス使用端末一覧」画面が開きます。「割当て方式の変更」をクリックします。



4. 「割当て方式を変更する端末を選択」画面が開きます。割当て方式を変更したい端末にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



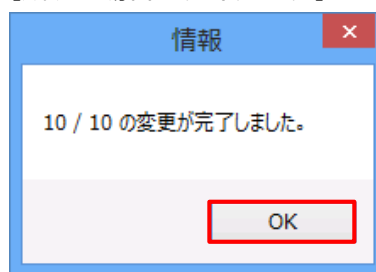
- 「割当て方式の変更内容の確認」画面が開きます。
内容を確認し、「変更」をクリックします。



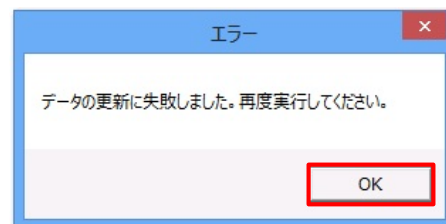
- 変更の結果をダイアログで表示します。
確認したら「OK」をクリックして閉じます。
(失敗の場合は「OK」をクリックすると
「VPPライセンス一覧」画面に戻ります。)

※変更が失敗する場合、サーバーが停止していたり、ネットワークが不安定な場合が考えられます。対処方法としては、ネットワークが切断されていないか確認する、または、しばらく待つてからご利用ください。

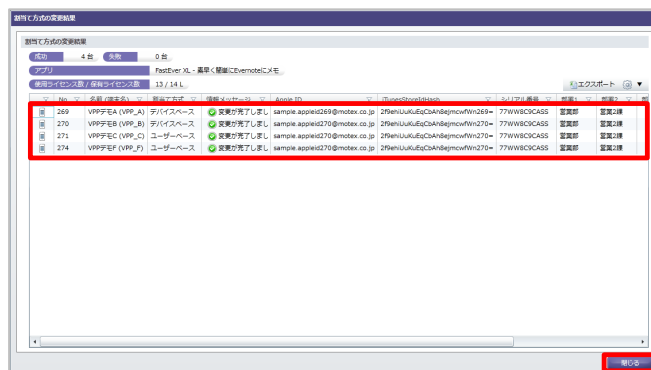
【成功の場合のダイアログ】



【失敗の場合のダイアログ】



- 「割当て方式の変更結果」画面が開きます。
割当て方式の割当て結果を確認したら、「閉じる」をクリックして閉じます。



以上で、アプリのライセンス割当て方式を変更する設定は完了です。

VPPトークンを更新する

VPPトークンの有効期限が近づいた場合の更新手順について確認します。

9-1 VPPトークンを更新する

guide

9

VPPトークンを更新する

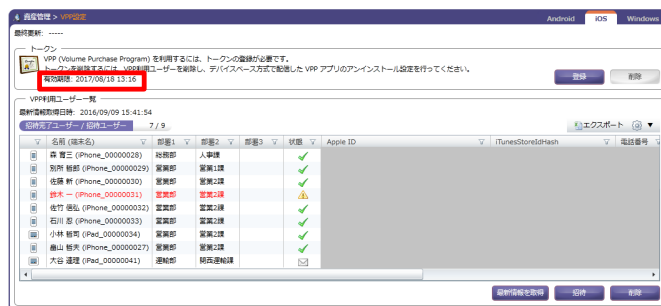
9-1



VPPとの連携のために管理コンソールにアップロードしたVPPトークンの有効期限は1年間です。有効期限が切れた場合、管理コンソール側でアプリに関する新しい操作(新規購入したアプリを配信するなど)を行うことができません。期限が切れる前に次の手順で更新してください。

1. 管理コンソールにログインし、「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。
2. 有効期限欄を確認して、VPPトークンの有効期限が近い、もしくは切れていないかを確認します。

※有効期限が近づくか、有効期限が切れると、管理コンソールにログインした直後にお知らせ(p.16)が表示されます。
また、「VPP設定」画面の有効期限表示の文字色が赤色になります。



更新が必要な場合は次の手順に進みます。

3. VPPトークンをダウンロードします。Apple Business Managerを利用して、VPPの登録を行っている場合は「2-1 VPPトークンをダウンロードする」(p.14)を参照してください。

<Apple Deployment Programs を利用して、VPPの登録を行っている場合>

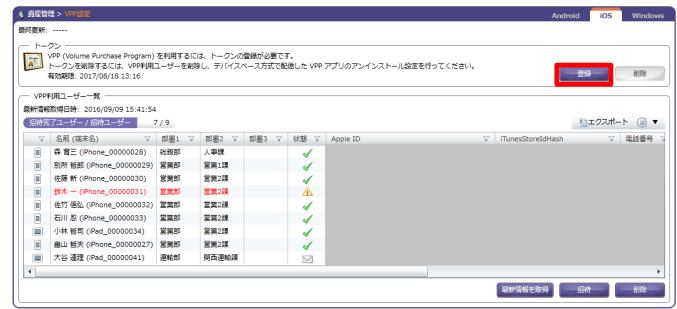
VPP ストアにアクセスし、VPP トークンをダウンロードします。サインイン後、サイト右上のアカウント名をクリックすると「アカウント概要」に遷移します。その後、「トークンをダウンロード」をクリックして、任意の場所にトークンを保存します。

◆注意

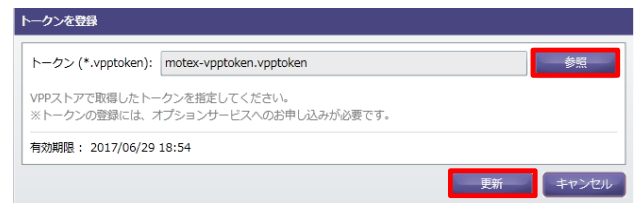
現在管理コンソールに登録されているVPPトークンをダウンロードした際のVPPアカウントで、サインインする必要があります。別のアカウントからトークンをダウンロードした場合は、VPPトークンを更新できません。

VPPを利用するアカウントを変更したい場合は、一度VPP利用ユーザーをすべて削除し、トークンを削除してから登録する必要があります。

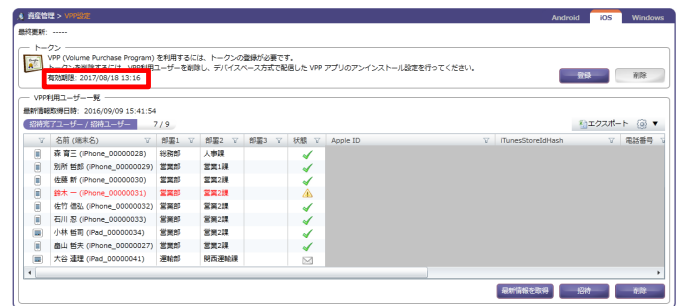
4. 取得した新しいVPPトークンを管理コンソールにアップロードします。1.の画面をもう一度開き、「登録」をクリックします。



5. 「参照」をクリックして、ダウンロードしたVPPトークン(*.vpptoken)を選択し、「更新」をクリックします。



6. 1.の「VPP設定」画面を確認して有効期限欄が更新されたか確認します。



VPP機能の利用をやめる

VPP機能の利用をやめる場合の手順について確認します。

- 10-1 VPP利用端末からLanScope Anを
アンインストールする場合の留意点
- 10-2 VPP利用ユーザーを削除する
- 10-3 LanScope AnからVPPトークンを削除する

guide 10

VPP利用端末からLanScope Anをアンインストールする場合の留意点

VPPを利用している端末から、LanScope Anをアンインストールする場合に確認します。

VPPを利用している端末から、別紙「アンインストールガイド for iOS」の手順でLanScope Anをアンインストールした場合の留意点は次のとおりです。

● 配信したアプリについて

- 配信したアプリは、An構成プロファイルをアンインストールしたタイミングで同時にアンインストールされます。

ただし、管理コンソールの[資産管理]-[VPP設定]のVPP利用ユーザー一覧に該当端末の情報が残っている場合、配信したアプリのライセンスは回収されません。

アプリのライセンスを回収方法は、配信方法によって異なります。

・ユーザーベース方式で配信したアプリ：

VPP利用ユーザー一覧から該当端末を削除する必要があります。

VPP利用ユーザーの削除手順は、「10-2 VPP利用ユーザーを削除する」(p.59)を参照してください。

※端末からAn構成プロファイルをアンインストールしたあとでもVPP利用ユーザーの削除は可能です。

・デバイスベース方式で配信したアプリ：

An構成プロファイルのアンインストールのみでライセンスが回収されます。

- 管理コンソールの [管理設定]-[組織情報変更]-[変更]から端末の情報を削除することでもアプリのライセンスを回収できます。ただしその場合、資産情報・位置情報などを含む端末の情報も完全に削除されます。ユーザーベース方式で配信したアプリの場合、VPPユーザー情報が削除され、ユーザーベース方式で割当てたライセンスが回収されます。

また、デバイスベース方式で配信したアプリの場合、デバイスベース方式で割当てたライセンスが回収されます。

資産情報・位置情報を残しておきたい場合は、各画面からエクスポートするか、[個人設定]-[ログ一括出力設定]および[ログ出力・ダウンロード]よりエクスポートしてください。手順の詳細は「ユーザーズガイド for iOS」を確認してください。

● 配信したブックについて

- 配信したブックは、端末からAn構成プロファイルをアンインストールしても削除されません。また、VPP利用ユーザー一覧から該当端末を削除しても、ライセンスは回収されません。

VPP利用ユーザーを削除する

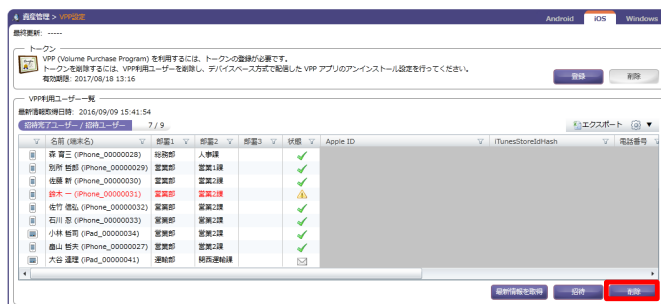
10-2



※本ページの手順は、ユーザーベース方式でアプリ配信した場合のみ利用します。

VPP利用ユーザーを管理コンソール上から削除したい場合に確認します。

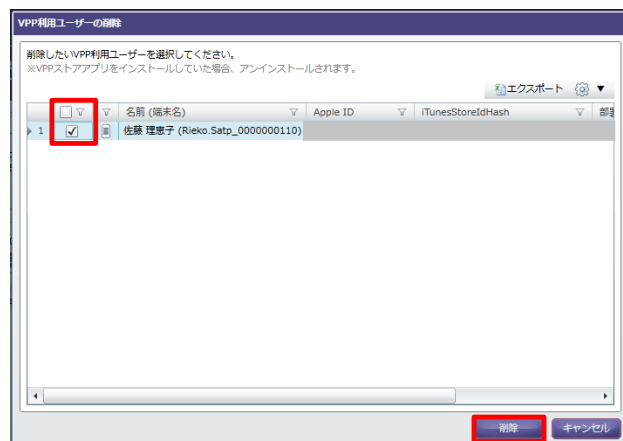
1. 「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。
2. 「削除」をクリックします。



3. 削除したいVPP利用ユーザーにチェックを入れて「削除」をクリックします。

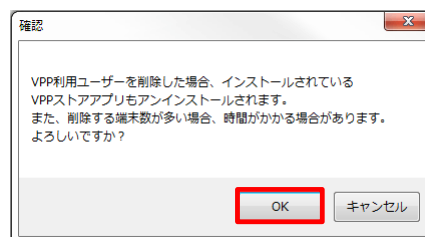
◆注意

VPP利用ユーザーを削除すると、アプリが端末からアンインストールされ、ライセンスが回収されます。



4. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。

VPP利用ユーザー一覧から該当ユーザーの情報が削除され、配信したアプリがアンインストールされ、ライセンスも回収されます。



LanScope AnからVPPトークンを削除する

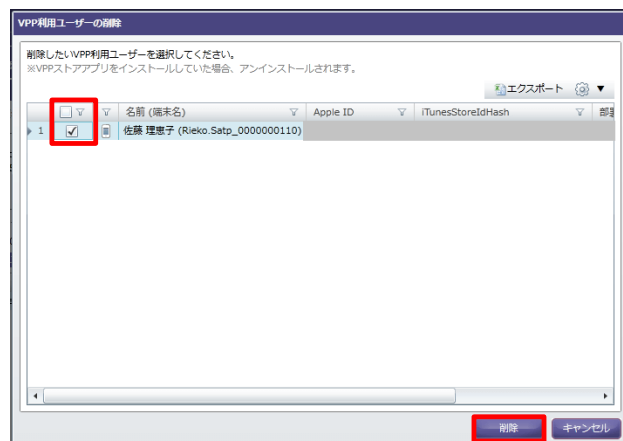
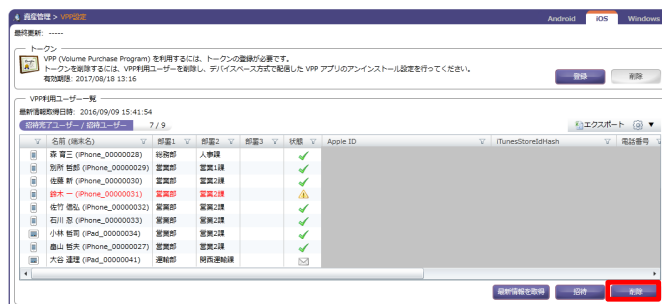
10-3



VPPトークンを削除したい場合に確認します。

※VPPトークンを更新したい場合は「9 VPPトークンを更新する」(p.54)を参照してください。

1. VPPトークンを削除するために、すべてのVPP利用ユーザーを削除します。「資産管理」メニューを選択して「VPP設定」をクリックします。
2. 「削除」をクリックします。
3. すべてのVPP利用ユーザーにチェックを入れて、「削除」をクリックします。



◆注意

VPPトークンを削除する前に、必ず下記の操作を行ってください。

[ユーザーベース方式]

「VPP設定」利用ユーザーをすべて削除してください。

- ※ 利用ユーザーが残っている場合、トークンを削除できません。
- ※ VPP利用ユーザーを削除すると、アプリが端末からアンインストールされ、ライセンスが回収されます。

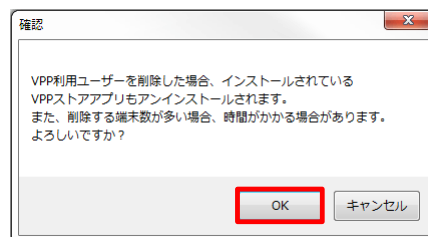
VPP利用ユーザーの削除は「10-2 VPP利用ユーザーを削除する(p.59)」を参照してください。

[デバイスベース方式]

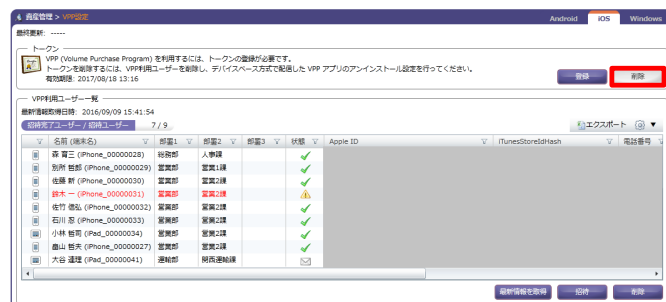
デバイスベース方式で配信したVPPアプリを「アプリ配信」画面からすべてアンインストールしてください。

「アプリ配信」画面でのアプリのアンインストールは別紙「アプリ配信ガイド」を参照してください。

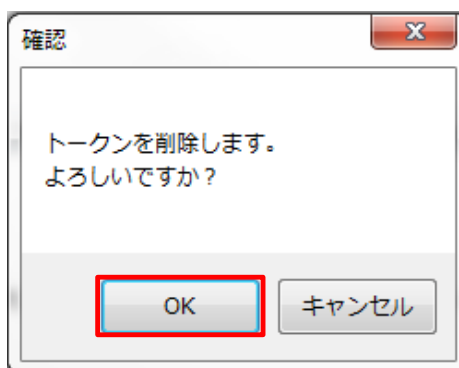
4. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



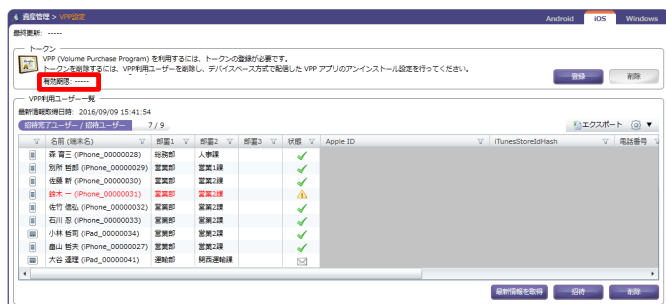
5. 上部の「削除」をクリックします。



6. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



7. 「有効期限」欄が「-----」になり、トークンが削除されたことを確認します。



その他VPP機能の運用方法について

VPP機能の運用に関連する、様々な手順を確認します。

11-1 Apple IDを資産情報一覧に反映させる

guide

11

Apple IDを資産情報一覧に反映させる

11-1



VPP機能（ユーザーベース方式）は「VPPへの招待を承諾した時点のApple IDと端末の組み合わせ」に対してアプリ・ブックを配信する仕様です。ここでは、より正確なライセンス管理を実現するために、資産情報一覧にApple IDの情報を反映させる手順を確認します。

※Apple IDの情報は自動的に収集されません。必要な場合はこの手順で情報を収集・反映してください。
なお、Apple IDの反映は任意です。必須ではありません。

この章では、3つのパターンを説明します。いずれかの方法で情報を反映させてください。

- ◆A.1件ずつ反映させる
- ◆B.インポートして一括で反映させる
- ◆C.メッセージ・アンケート機能で反映させる

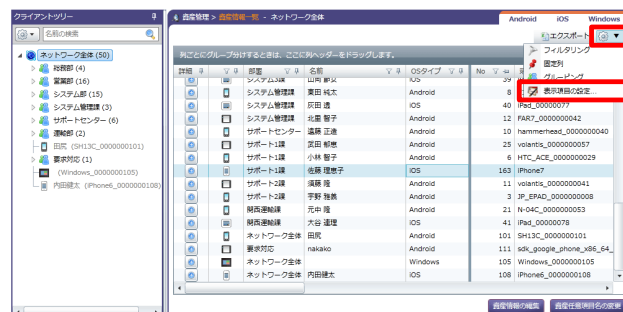
※ほかにも、端末にLanScope Anをインストールする前であれば、「端末登録設定」を実施する際にApple IDを入力(インポート)する方法もあります。詳細は「スタートアップガイド for iOS」を参照してください。

◆A.1件ずつ反映させる

Apple IDを1件ずつ入力して反映させる方法です。次のような場合に適しています。

- 反映したい件数が少ない

1. 「資産管理」メニューを選択して「資産情報一覧」をクリックします。
2. 右上の歯車アイコンをクリックし「表示項目の設定」をクリックします。



3. 「Apple ID(iOS)」にチェックを入れて「×」で閉じます。



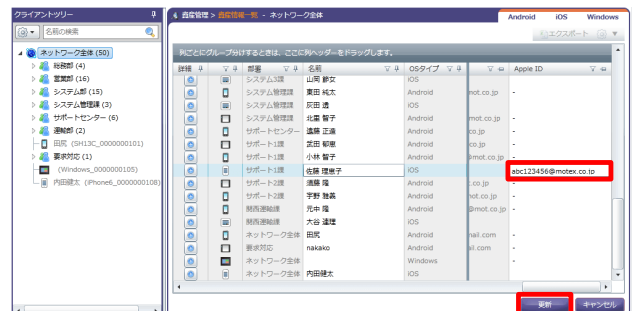
4. 「資産情報の編集」をクリックします。



5. Apple IDを入力します。完了すれば「更新」をクリックして確定します。

◆ポイント

Apple IDを入力できるのはiOSのみです。それ以外のOSの場合「-」が表示されます。



6. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



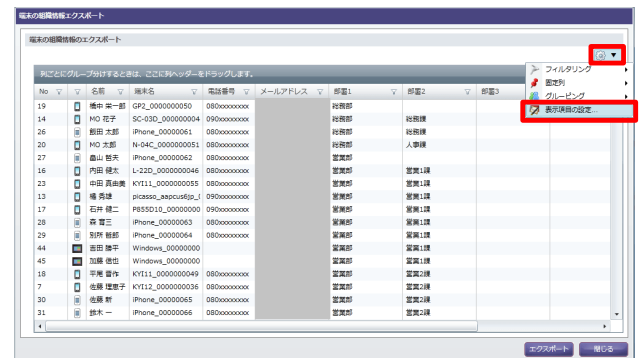


◆B.インポートして一括で反映させる

Apple IDを記載したExcelファイルをインポートして一括で反映させる方法です。次のような場合に適しています。

- 反映したい件数が多い
- 管理者の手元に全台分のApple IDの情報がある

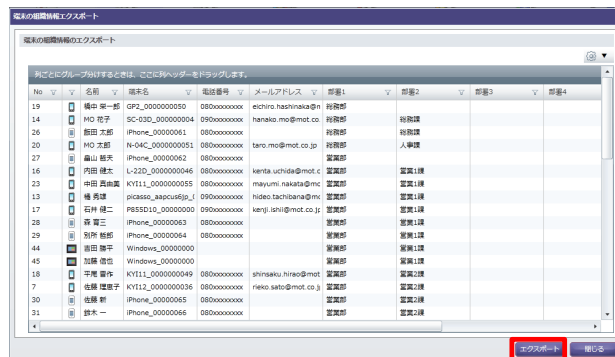
1. 「管理設定」メニューを選択して「組織情報変更」をクリックします。
2. 「エクスポート」をクリックします。
3. 右上の歯車アイコンをクリックし「表示項目の設定」をクリックします。



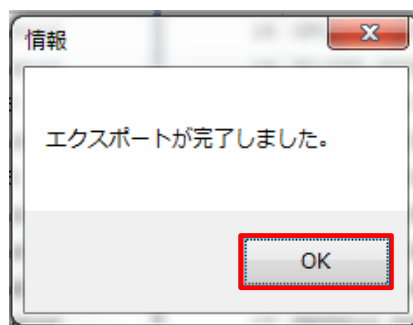
4. 「Apple ID」にチェックを入れて「×」で閉じます。



5. 「エクスポート」をクリックして情報を保存します。



6. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。「端末の組織情報エクスポート」も「閉じる」をクリックして閉じます。



7. Excel等で「Apple ID」列を編集して上書き保存し、ファイルを閉じます。ここでは「No」「端末名」列は編集しないでください。

No.	名前	端末名	電話番号	メールアドレス	部署1	部署2	部署3	部署4	部署5	Apple ID
18	東田 純太	P11_00000000			システム管理課					
40	岡田 浩	IPad_00000001			システム管理課					
12	北里 智子	FAR7_000000			システム管理課					
10	遠藤 正造	hammerhead			サポートセンター					
25	武田 郁恵	volantis_0000			サポートセンサポート1課					
6	小林 梨子	HTC_ACE00			サポートセンサポート1課					
163	佐藤 理恵子	iPhone7			サポートセンサポート1課					
11	渡藤 隆	volantis_0000			サポートセンサポート2課					
3	宇野 信典	iPSPAD_000			サポートセンサポート2課					
21	元中 隆	N-04C_0000			運輸部					
41	大谷 連理	IPad_00000007			関西運輸課					
108	内田 健太	IPhone6_0000			運輸部					

8. 「管理設定」メニューを選択して「組織情報変更」をクリックします。

9. 「インポート」をクリックします。



10. 「参照」をクリックして編集したファイルを選択し、インポート項目について以下をそれぞれ設定します。

① 部署情報の削除設定

「インポート操作による部署情報の削除を行わない」を選択します。

② 端末を一意に特定する項目の選択

「No」をクリックして「★」にある「No」をクリックし、「<」をクリックします。「関連付ける列名」欄に「No」が追加されます。

完了すれば、同じ要領で「端末名」も設定します。

※LanScope Anの情報と「インポートファイル」の情報とを紐付けるための項目を設定します。紐付けが成立した端末のみ、③で選択した項目が更新されます。一意の項目であれば「No」以外でも構いません。

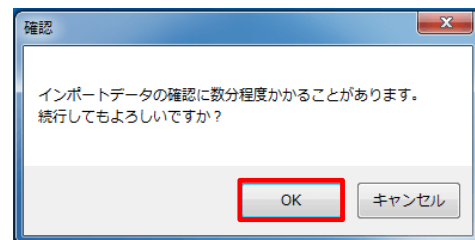
③ 更新項目の選択

「Apple ID(iOS)」をクリックして「★」にある「Apple ID」をクリックし、「<」をクリックします。「関連付ける列名」に「Apple ID」が追加されます。



11. 「次へ」をクリックします。

12. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。



13. インポートデータにエラーがないか(「インポートファイルのエラー」タブ)、データの紐付けは正しいか(「更新する端末」タブ)を確認して「インポート」をクリックします。
※「インポートにより新規作成される部署の確認」は空欄で問題ありません。

No	名前	端末名	Apple ID (iOS)
6	小林 智子	HTC_ACE_0000000029	
163	佐藤 理恵子	iPhone7	abc123@motex.co.jp
11	須藤 隆	volantis_0000000041	
3	宇野 雅義	JP_EPAD_0000000008	
21	元中 隆	N-04C_0000000053	
41	大谷 達理	iPad_000000078	

14. ダイアログが表示されますので「OK」をクリックして閉じます。

15. インポート結果を確認して「閉じる」をクリックします。

インポートしたApple IDは、[資産管理]-[資産情報一覧]から確認できます。

※Apple IDの項目がない場合は、右上の歯車アイコンをクリックし、「表示項目の設定」画面で「Apple ID」にチェックを入れると確認できます。

No	名前	端末名	Apple ID (iOS)	情報メッセージ
19	橋中 栄一郎	GP2_0000000050		イン
14	MO 花子	SC-03D_0000000044		イン
26	飯田 太郎	iPhone_000000061		イン
20	MO 太郎	N-04C_0000000051		イン
27	畠山 哲夫	iPhone_000000062		イン
16	内田 健太	L-22D_0000000046		イン
72	中田 喜由里	Volantis_0000000055		イン

◆C.メッセージ・アンケート機能で反映させる

端末上のAnクライアント(アプリ)にApple IDを聞き取るためのアンケートを送信して端末利用者に回答してもらい、回答内容を「資産情報一覧」に反映させる方法です。次のような場合に適しています。

- 登録したい件数が多い
- 管理者の手元に全台分のApple IDの情報がない

メッセージ・アンケート機能の利用に必要な環境、設定、「資産情報一覧」への反映手順は、別紙「メッセージ・アンケート機能ガイド」を参照してください。

※2015年9月30日以降にLanScope Anの利用を開始された場合は、Apple IDを聞き取るためのアンケートがあらかじめ管理コンソールに登録されています。

通常はアンケートを送信する際「①アンケートを作成する」「②アンケートを送信する」の2段階の操作が必要ですが、このうち①の操作が不要になります。

メッセージ・アンケート機能ガイド2章(guide2)の手順を実施する際は、アンケート作成手順を飛ばし、[資産管理]-[メッセージ・アンケート]-[送信]画面から『**端末に設定されている「Apple ID」入力をお願い**』を選択して端末に送信してください。

お問い合わせ先

お問い合わせ先

- 操作方法、トラブル、販売、お取扱いなどのお問い合わせについては、下記のURLをご参照ください。

<http://www.lanscope.jp/an/inquiry/>

- よくあるご質問(FAQ)については下記のURLをご参照ください。

https://faq.motex.co.jp/?site_domain=an

MOTEX

www.motex.co.jp